

松本市国際関係資料

2020年
(令和2年度)

松 本 市

目 次

| | | |
|---|-----------------------|-----|
| 1 | 海外姉妹・友好都市 | ページ |
| | 長野県の海外姉妹・友好都市 | 2 |
| | 松本市の海外姉妹・友好都市 | 4 |
| | 海外姉妹・友好都市 歴代首長 | 5 |
| | ソルトレークシティ（アメリカ合衆国ユタ州） | 6 |
| | カトマンズ市（ネパール連邦民主共和国） | 11 |
| | 廊坊市（中華人民共和国河北省） | 19 |
| | グリンデルワルト村（スイス連邦ベルン州） | 27 |
| 2 | 海外交流都市 | |
| | 高雄市（台湾） | 35 |
| 3 | 便利情報 | |
| | 和暦西暦対応表 | 40 |

1 海外姉妹・友好都市

長野県の海外姉妹・友好都市

資料提供：(一財)自治体国際化協会

| 都市名 | 提携都市名 | 国名 | 提携年月日 | 提携理由等 |
|------|------------------------|--------|-------------|---|
| 長野県 | ミズーリ州 | アメリカ | 1965年4月1日 | 昭和38年秋東京で開かれた日米知事会議後の長野県訪問が契機 |
| | 河北省 | 中国 | 1983年11月11日 | 昭和52年「日中友好長野県民の翼」が訪中 |
| 長野市 | クリアウォーター (フロリダ州) | アメリカ | 1959年3月14日 | 昭和31年市長が渡米、ク市訪問メダル贈与、これに対し感謝状 |
| | 石家荘市 (河北省) | 中国 | 1981年4月19日 | 地形、気候、農業が似通っていて、昭和54年に申入れ |
| 上田市 | 寧波市 (浙江省) | 中国 | 1995年2月9日 | 竜洞院前住職の村上氏の永年の交流が契機。平成4年国際交流研究委員会からの提言あり |
| | ブルームフィールド市郡 (コロラド州) | アメリカ | 2001年5月24日 | 平成8年から5年連続で訪れていた国際教育団体アップウイズピープルの本部があったことを契機に交流開始 |
| | ダボス町 | スイス | 1976年3月25日 | 菅平高原は50年間日本ダボスの愛称で親しまれ、ダボスに申入れ |
| 岡谷市 | マウント・プレザント (ミシガン州) | アメリカ | 1965年6月14日 | マ市で岡谷市にペンパルを持つ人が指名、申し込まれた。 |
| 飯田市 | シャルルヴィル メジェール | フランス | 1988年8月5日 | 人形劇の街同士日本ウニマの働きかけ。ウニマ(国際人形劇連盟)事務局所在地 |
| 諏訪市 | ヴェルグル市/ クンドル町 | オーストリア | 1960年9月27日 | 日唄協会、林元知事らの斡旋により選ばれた |
| | セントルイス (ミズーリ州) | アメリカ | 1974年9月23日 | 県姉妹関係で西沢元知事の仲介、工業がともに盛ん |
| | アンボワーズ | フランス | 1987年3月4日 | 駐仏大使と交友のあった元セイコーエプソン社長の仲介 |
| 須坂市 | 四平市 (吉林省) | 中国 | 1994年5月12日 | 平成3年県日中友好協会を通じ交流要望あり。友好訪問で交流を深め、平成5年3月議会で議決 |
| 伊那市 | 通州区 (北京市) | 中国 | 1994年11月22日 | 平成3年から交流開始。市議会の代表、商工会議所、農協、市民らで構成する訪問団を毎年派遣 |
| 駒ヶ根市 | ポカラ市 | ネパール | 2001年2月18日 | 山岳観光都市としてのつながりで平成9年より交流 |
| 大町市 | インスブルック | オーストリア | 1985年3月15日 | スキーを通じ動物交換(ニホンカモシカ・アルプスマーモセット) |
| | メンドシーノ (カリフォルニア州) | アメリカ | 1980年5月31日 | 旧美麻村の文化センター創立者とメ村アートセンター創立者の仲介 |
| 飯山市 | 深セン市福田区 (広東省) | 中国 | 2012年7月10日 | 深セン外国語学校と、飯山市内中学校との交流がきっかけ |
| 茅野市 | ロングモント (コロラド州) | アメリカ | 1990年5月25日 | 地形、人口規模、産業構造の類似性から申し込まれた。 |
| 塩尻市 | ミシャワカ (インディアナ州) | アメリカ | 1972年6月5日 | 昭和39年小学校児童の絵画、版画、毛筆作品を贈り姉妹校提携したことがきっかけ |
| 佐久市 | アバロン | フランス | 1976年7月14日 | 昭和49年仏で禅の布教者から市内知人の住職に紹介 |
| | サク市 | エストニア | 2007年5月1日 | 同じ名前ということで、駐日エストニア大使の紹介で交流開始 |
| | スフバートル区 (ウランバートル市) | モンゴル | 2008年8月4日 | 平成18年「モンゴル国建国800年記念」に際して佐久市の熱気球とパイロットを派遣したことがきっかけで交流を深める。 |

| 都市名 | 提携都市名 | 国名 | 提携年月日 | 提携理由等 |
|---------|---------------------------|----------|-------------|--|
| 東 御 市 | マドラス (オレゴン州) | アメリカ | 2005年6月24日 | 旧立科町を訪れたオレゴン市の一行にマドラス市の人があり、姉妹都市提携を希望 |
| 安曇野市 | クラムザッハ | オーストリア | 2007年11月4日 | あずみ野ガラス工房をもつ旧豊科町と本場ガラス工芸の町との縁 |
| 軽井沢町 | カンポス・ド・ ジョルドン | ブラジル | 1968年7月16日 | ジ市に住む日本人が気候風土が類似していることにより紹介 |
| | ウイスラー (ブリティッシュ・コロンビア州) | カナダ | 1999年3月3日 | 長野五輪カーリング競技でカナダの女子が優勝、男子が準優勝したが、軽井沢町が会場になったことがきっかけ |
| 青 木 村 | ナムチェ・バザール村 | ネパール | 2004年5月22日 | シェルパの本拠地でもあるナ村と観光・文化・教育面で交流を希望 |
| 立 科 町 | オレゴン市 (オレゴン州) | アメリカ | 1974年9月4日 | 昭和45年から国際学級を毎年開催、オ市からも参加 |
| 飯 島 町 | フェラス | ブラジル | 1975年5月20日 | 町出身フ市在住者が仲介し、申入れ |
| 富士見町 | リッチモンド | ニュージーランド | 1993年10月28日 | 人材育成海外派遣事業により、平成2年から中学生の相互派遣で交流 |
| 辰 野 町 | ワイトモディストリクト | ニュージーランド | 1995年3月30日 | 豊南女子短大生の留学を通じた交流とホテルの生息地同士ということが縁 |
| 下 諏 訪 町 | 開封市 (河南省) | 中国 | 2002年4月22日 | 中国北宋時代に建設された水駆動による大型天文時計装置「水運儀象台」を平成9年、諏訪湖時の科学館「儀象堂」に復元したことを機に交流開始 |
| 坂 城 町 | 満城県 (河北省) | 中国 | 2000年11月3日 | 河北大学等により日中共同研究が同町を対象に行われたのをきっかけに提携 |
| 野沢温泉村 | サント・アントン | オーストリア | 1971年2月7日 | 奥のスキー指導者が来村し指導、その出身村 |
| 山ノ内町 | 密雲県 (北京市) | 中国 | 2007年4月27日 | 県日中から勧められたことがきっかけで平成12年から交流を開始 |
| | ベイル町 (コロラド州) | アメリカ合衆国 | 2018年1月25日 | 平成28年8月阿部長野県知事のコロラド州訪問を契機に県が仲介により |
| 川 上 村 | ワトソンビル (カリフォルニア州) | アメリカ | 1988年10月9日 | 昭和60年野菜生産先進地との交流を熱望し、米国駐在日本人農業コンサルタントに仲介を依頼 |
| 南 牧 村 | ラ・トリニダッド町 | フィリピン | 2014年9月19日 | 農業研修生の受入れを機に交流を開始 |
| 小 谷 村 | マールボロウ | ニュージーランド | 1991年1月16日 | 両市村は、ともにアウトバウンドスクールの分校があるため |
| | オタリ・セントメリー | イギリス | 1992年5月4日 | 「オタリ」という名称が同じことから交流を実施 |
| 大 桑 村 | シェルビービル (イリノイ州) | アメリカ | 1997年8月6日 | 石川島播磨重工業が両地に工場を持ち、平成5年から交流 |
| 松 川 村 | 鹿港鎮 (彰化縣) | 台湾 | 2013年6月12日 | 鹿港ロータリークラブと交流のある松本西南ロータリークラブの仲介により |
| 泰 阜 村 | ハルピン市方正県 (黒竜江省) | 中国 | 1997年9月27日 | 村から送られた旧満州開拓団が終戦前後の逃避行でお世話になった地が方正県。この恩返しをしたいという声をきっかけに友好提携 |
| 白 馬 村 | レツヒ | オーストリア | 2001年7月12日 | 平成7年から八方地区とスキーをとおしての交流が始まり、その交流が発展し村としての友好提携を実施 |
| | オーバーヴィーゼンタール | ドイツ | 2002年8月18日 | 平成10年の長野冬季五輪をきっかけに友好提携を実施 |
| 原 村 | プケコヘ区 (フランクリン市) | ニュージーランド | 2002年7月26日 | 平成9年から始まったホームステイをきっかけに提携、野菜栽培が共通点 |

松本市の海外姉妹・友好都市

1 連絡先

| 市名 | 住所 | TEL・FAX・ホームページアドレス |
|-----------|--|--|
| ソルトレークシティ | Salt Lake City Corporation 451 South State Street Salt Lake City, UT84111 USA | TEL : 1-801-535-7704 (Mayor's Office) FAX : 1-801-535-6331 ホームページ : www.slcgov.com |
| カトマンズ市 | Kathmandu Metropolitan City Bagdurbar, Kathmandu, Nepal | TEL : 977-1-4231-481 FAX : 977-1-4268-509 ホームページ : www.kathmandu.gov.np |
| 廊坊市 | 中国河北省廊坊市金光道20号 | TEL : 86-316-233-9390 FAX : 86-316-213-9216 ホームページ : www.lf.gov.cn |
| グリンデルワルト村 | Gemeindeverwaltung Spillstattstrasse 2, Postfach 104 3818 Grindelwald, Switzerland | TEL : 41-33-854-1414 FAX : 41-33-854-1415 ホームページ : www.grindelwald.ch |

2 提携時について

| 市名 | 年月日 | 代表者 |
|-----------|---|--|
| ソルトレークシティ | 昭和33(1958)年11月29日 調印ではなく、ソ市から金製の鍵が贈られた | ・松本市長 降旗 徳弥 ・名古屋アメリカ文化センター館長 (マッカーサー駐日大使代理) スチュアート・J・ポハセック |
| カトマンズ市 | 平成元(1989)年11月17日 | ・松本市長 和合 正治 ・議長 大槻 政彦 ・カトマンズ市長 サラダ・プラサド・バタライ ・事務次官 デリー・プラカス・ギミレ |
| 廊坊市 | 平成7(1995)年3月21日 | ・松本市長 有賀 正 ・議長 百瀬 常雄 ・廊坊市長 王 高鵬 ・廊坊市人民代表大会常务委员会主任 任 聯飛 |
| グリンデルワルト村 | 平成17(2005)年5月16日 松本市と姉妹交流継続に合意 昭和47(1972)年4月20日 旧安曇村と姉妹村提携 | ・松本市長 菅谷 昭 ・議長 渡辺 聡 ・グリンデルワルト村長 アンドレアス・スチューダー ・グリンデルワルト村書記長 フリッツ・ローナー |

海外姉妹・友好都市 歴代首長

| 年 | 松本市 | ソルトレークシティ (提携62周年) | カトマンズ市 (提携31周年) | 廊坊市 (提携25周年) | グリンデルワルト村 (提携15周年) |
|------|----------------------|--|--|---|---|
| 1957 | 降旗 徳弥 (1957～1969) | Adiel F. Stewart (1956～1959) 姉妹提携(1958) J. Bracken Lee (1960～1971) | | | |
| 1969 | 深沢 松美 (1969～1976) | Jake Garn (1972～1975) Conrad B. Harrison (1975～1975) | | | |
| 1976 | 和合 正治 (1976～1992) | Ted Wilson (1976～1985) Palmer DePaulis (1985～1992) | Sharada Prasad Bhattarai (1986～1990) 姉妹提携(1989) P. L. Singh | | |
| 1992 | 有賀 正 (1992～2004) | Deedee Corradini (1992～2000) | (1991～1997) Keshav Sthapit (1997～2002) ※2002年7月から政府派遣 Shiva Bhakta Sharma | 王 高鵬(1995～1997) 友好提携(1995) 王 輔捷(1997～1999) 孫 建群(1999～2002) 吳 顕国(2002～2003) 王 愛民(2003～2011) | |
| 2000 | | Rocky Anderson (2000～2008) | | | |
| 2002 | | | | | |
| 2004 | 菅谷 昭 (2004～2020) | Ralph Becker (2008～2016) | Surya Sharan Regmi Surya Prasad Silwal Krishna Prasad Devkota Hem Sharma Pokharel Padam Raj Regmi Dinesh Prasad Thapaliya Narayan Gopal Malego Niranjan Baral Ganesh Rai Ananda Raj Pokharel Ganesh Rai Kedar Bahadur Adhikari Laxman Aryal Dhan Bahadur Shrestha Rudra Sing Taman | 聶 瑞平(2011～2013) 馮 韶慧(2013～2016) 陳 平(2016～2019) 趙 革(2019～2020) | Andreas Studer (2004～2007) 姉妹提携(2005) Emanuel Schläppi (2008～) Christian Andereg (2016～2020) |
| 2010 | | | | | |
| 2011 | | | | | |
| 2014 | | | | | |
| 2015 | | | | | |
| 2016 | | Jackie Biskupski (2016～2020) | Bidya Sunder Shakya (2017～) | | |
| 2017 | | | | | |
| 2020 | 臥雲 義尚 (2020～) | Erin Mendenhall (2020～) | | 楊 燕偉(2020～) | Beat Bucher (2020～) |

ソルトレークシティの概要・市との交流

アメリカ合衆国ユタ州の州都ソルトレークシティとの姉妹都市提携は、昭和33年11月29日、日本で13番目という早い時期に結ばれ、平成30年に60周年を迎えました。

両市の関係は、多くの市民の熱意に支えられ、2団体から4度の表彰を受けています。

1 都市概要

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------------------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| A 人 口 | 約20万人 | | | | | | | | | | | | | |
| B 面 積 | 288km ² | | | | | | | | | | | | | |
| C 平 均 標 高 | 1, 319m | | | | | | | | | | | | | |
| D 時 差 | -15時間（冬-16時間） | | | | | | | | | | | | | |
| E 距 離 | 8, 900km | | | | | | | | | | | | | |
| F 気 候 | (気温=℃、降水量=mm) | | | | | | | | | | | | | |
| | 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 |
| 最 高 気 温 | | 2.9 | 6.4 | 11.3 | 16.3 | 22.2 | 28.3 | 33.6 | 32.4 | 26.4 | 18.8 | 10.1 | 3.7 | 17.7 |
| 最 低 気 温 | | -6.7 | -4.1 | -0.3 | 3.3 | 7.8 | 12.4 | 16.9 | 16.2 | 10.7 | 4.4 | -1.3 | -5.6 | 4.5 |
| 降 水 量 | | 34.5 | 32.8 | 45.5 | 52.8 | 46.0 | 23.4 | 18.5 | 20.3 | 27.4 | 34.0 | 34.0 | 33.5 | 33.6 |
| G 主 な 産 業 | 観光 | | | | | | | | | | | | | |
| H 特 産 物 | 鉱産物 | | | | | | | | | | | | | |
| I 市 長 | エリン・メンデンホール(Erin Mendenhall)氏、2020.1～ | | | | | | | | | | | | | |

2 提携理由など

- (1) 気候・風景・地形など、自然環境が似ていること
- (2) 松本中学校卒のジャパントイムス渉外部長、村山有氏の仲介
- (3) 戦時中、在米日本人がソルトレークシティに大変お世話になったことから、在ソ日本人らが交流を強く望んだため。

3 合意書

ソルトレークシティについては、合意書の調印はせず、ソルトレークシティから金製の鍵を贈られたことで、提携の証としています。

4 表彰

アメリカ国際姉妹都市協会(リーダーズ・ダイジェスト財団協賛)

①昭和42年

②昭和56年

③昭和58年

国際親善都市連盟

昭和62年

5 提携・交流団体

| 年 月 | 松 本 市 | ソ 市 |
|-----------|--------------|-----------------------|
| 昭和51年 7月 | 松本商工会議所 | ソ市商業会議所 |
| | 松本青年会議所 | ソ市青年会議所 |
| | 松本深志ライオンズクラブ | ローズパーク・ライオンズクラブ |
| | 松本地区ガールスカウト | ソ市ガールスカウト |
| 昭和51年 7月 | 長野放送 | KSLテレビ |
| 昭和53年 7月 | 信州大学 | ユタ大学 |
| 昭和54年 10月 | 松本地区ボーイスカウト | ソ市ボーイスカウト |
| 平成 3年 5月 | 市民タイムス | デザレットニュース |
| 平成 10年 7月 | 松本市立旭町中学校 | ヒルサイド・インターミディエイト・スクール |

6 松本市ソルトレークシティ姉妹提携委員会概要

昭和52年3月に松本市をはじめ姉妹提携を結んだ各団体をもって姉妹都市提携委員会を組織し、名誉会長に松本市長、会長に商工会議所会頭、専務理事に本郷松本商工会議所専務理事をあて、事務局を松本商工会議所内において設立されています。

官民協調方式による姉妹提携活動を推進しているが、運営の実態は民間主導型で進められ、行政は財政的なサポートを主としています。

会員数 : 個人会員 42 団体会員 5 (令和2年10月現在)

7 交流事業

(1) 公式訪問団

| ソルトレークシティへ | | | 松本市へ | | |
|------------|------|-----------|--------|-----|---------------|
| 昭和49年 | 23名 | 15周年記念訪問団 | 昭和41年 | 15名 | 市民団 |
| 昭和51年 | 43名 | 市民団 | 昭和43年 | 15名 | 〃 |
| 昭和53年 | 40名 | 20周年記念訪問団 | 昭和50年 | 29名 | 〃 |
| 昭和58年 | 26名 | 25周年記念訪問団 | 昭和53年 | 38名 | 〃 |
| 昭和61年 | 36名 | 市民団 | 昭和56年 | 46名 | 〃 |
| 昭和63年 | 33名 | 30周年記念訪問団 | 昭和58年 | 42名 | 〃 |
| 平成3年 | 231名 | 市民団 | 昭和62年 | 30名 | 〃 |
| 平成4年 | 30名 | 〃 | 平成2年 | 20名 | 〃 |
| 平成5年 | 60名 | 35周年記念訪問団 | 平成5年 | 60名 | 〃 |
| 平成6年 | 11名 | 市民団 | 平成10年 | 67名 | 長野冬季五輪視察団 |
| 平成8年 | 48名 | 〃 | 平成19年 | 2名 | 市制施行100周年記念式典 |
| 平成10年 | 35名 | 40周年記念訪問団 | 平成20年 | 17名 | 50周年記念訪問団 |
| 平成14年 | 34名 | 市民団 | 平成25年 | 7名 | 55周年記念訪問団 |
| 平成15年 | 23名 | 45周年記念訪問団 | | | |
| 平成20年 | 41名 | 50周年記念訪問団 | | | |
| 平成25年 | 21名 | 55周年記念訪問団 | | | |
| 平成30年 | 29名 | 60周年記念訪問団 | | | |
| 計 764名 | | | 計 388名 | | |

(2) 市民訪問団

| ソルトレークシティへ | | | 松本市へ | | |
|------------|-----|----------|--------|-----|----------|
| 昭和41年 | 10名 | 才能教育研究会 | 昭和35年 | 18名 | ユタ大 学 |
| 昭和54年 | 36名 | 〃 | 昭和47年 | 10名 | 〃 |
| 〃 | 12名 | ボーイスカウト | 昭和49年 | 10名 | 〃 |
| 昭和55年 | 5名 | 農協青年団 | 昭和51年 | 10名 | 〃 |
| 昭和56年 | 10名 | 松本スキークラブ | 昭和59年 | 22名 | 〃 |
| 〃 | 8名 | ボーイスカウト | 平成3年 | 5名 | 〃 |
| | | | 平成4年 | 6名 | 〃 |
| | | | 平成13年 | 2名 | 世界岳都都市会議 |
| | | | 平成20年 | 8名 | 市民団 |
| | | | 平成30年 | 13名 | 市民団 |
| 計 81名 | | | 計 104名 | | |

(3) 学生交流

| ソルトレークシティへ(国際生活スクール) 高校生を中心に夏期体験研修のためソ市派遣 | | | | 松 本 市 へ | | |
|--|-------|-----|------|---------|-----|----------------------|
| 第 1回 | 昭和54年 | 48名 | 18日間 | 昭和59年 | 12名 | 高 校 生 |
| 第 2回 | 昭和55年 | 36名 | 17日間 | 昭和60年 | 31名 | 中 学 生 |
| 第 3回 | 昭和56年 | 24名 | 18日間 | 昭和61年 | 10名 | 〃 |
| 第 4回 | 昭和57年 | 22名 | 16日間 | 平成 6年 | 5名 | ブリガムヤング大学研修生 |
| 第 5回 | 昭和59年 | 24名 | 17日間 | 平成 7年 | 7名 | 〃 |
| 第 6回 | 昭和60年 | 23名 | 18日間 | 平成 8年 | 7名 | 〃 |
| 第 7回 | 昭和61年 | 30名 | 16日間 | 平成 9年 | 5名 | 〃 |
| 第 8回 | 昭和62年 | 36名 | 16日間 | 平成10年 | 3名 | 〃 |
| 第 9回 | 昭和63年 | 51名 | 16日間 | 平成11年 | 4名 | 〃 |
| 第10回 | 平成元年 | 35名 | 15日間 | 平成12年 | 2名 | 〃 |
| 第11回 | 平成 2年 | 40名 | 15日間 | 平成13年 | 2名 | 〃 |
| 第12回 | 平成 3年 | 25名 | 15日間 | 平成14年 | 2名 | 〃 |
| 第13回 | 平成 4年 | 25名 | 15日間 | 平成15年 | 3名 | 〃 |
| 第14回 | 平成 5年 | 20名 | 15日間 | 平成16年 | 3名 | 〃 |
| 第15回 | 平成 6年 | 28名 | 15日間 | 平成17年 | 2名 | 〃 |
| 第16回 | 平成 7年 | 28名 | 15日間 | 平成18年 | 1名 | 〃 |
| 第17回 | 平成 8年 | 27名 | 15日間 | 平成20年 | 1名 | 〃 |
| 第18回 | 平成 9年 | 28名 | 15日間 | 平成21年 | 13名 | ウォーターフォード高校生(引率2名含む) |
| 第19回 | 平成10年 | 18名 | 15日間 | 平成22年 | 1名 | ブリガムヤング大学研修生 |
| 第20回 | 平成11年 | 12名 | 15日間 | 平成23年 | 1名 | 〃 |
| 第21回 | 平成12年 | 21名 | 15日間 | 平成24年 | 1名 | 〃 |
| 第22回 | 平成14年 | 9名 | 15日間 | 平成25年 | 1名 | 〃 |
| 第23回 | 平成15年 | 10名 | 15日間 | 平成26年 | 1名 | 〃 |
| 第24回 | 平成16年 | 12名 | 15日間 | 平成27年 | 1名 | 〃 |
| 第25回 | 平成17年 | 9名 | 15日間 | 平成29年 | 1名 | 〃 |
| 第26回 | 平成18年 | 13名 | 14日間 | | | |
| 第27回 | 平成19年 | 9名 | 15日間 | | | |
| 第28回 | 平成20年 | 11名 | 15日間 | | | |
| 第29回 | 平成21年 | 9名 | 10日間 | | | |
| 第30回 | 平成22年 | 16名 | 13日間 | | | |
| 第31回 | 平成23年 | 14名 | 13日間 | | | |
| 第32回 | 平成24年 | 34名 | 13日間 | | | |
| 第33回 | 平成25年 | 13名 | 13日間 | | | |
| 第34回 | 平成26年 | 15名 | 13日間 | | | |
| 第35回 | 平成27年 | 17名 | 13日間 | | | |
| 第36回 | 平成28年 | 20名 | 13日間 | | | |
| 第37回 | 平成29年 | 12名 | 13日間 | | | |
| 第38回 | 平成30年 | 14名 | 13日間 | | | |
| 計 838名 | | | | 計 120名 | | |

(4) 中学校教諭ユタ大学英語短期留学派遣

昭和47年度から55年度まで10名派遣。57年度から平成15年度までは、上記国際生活スクールの引率責任者として松本市教育委員会から派遣

(5) 義援金について

- ・平成23年4月 東日本大震災への義援金3千ドルが届いた
 - ・同年7月 追加の5千ドルを受領
 - ・同年9月 追加の2千ドルを受領
- 合計1万ドル(約80万円)を受領。松本市の義援金受付口座へ入金済

(6) 交流の歴史

| ソルトレークシティへ | | 松本市へ | |
|------------|--|-------|--|
| 昭和35年 | 6月 下条市議会議員 | 昭和34年 | 10月 オルピンユタ大学総長 |
| 昭和37年 | 7月 降旗松本市長 | 昭和38年 | 4月 オルピンユタ大学総長夫妻 |
| | 10月 山岡市議会議員 | | 10月 クライド夫妻(ユタ州知事) |
| 昭和39年 | 4月 西沢長野県知事 | 昭和41年 | 4月 オルピン博士 |
| 昭和40年 | 1月 滝沢松本電鉄社長 | 昭和42年 | 7月 ファンズワースプリガムヤング大学教授 |
| | 1月 斎藤達雄(日本画家) | 昭和43年 | 5月 ジョージ・L・エバンス夫妻(会社重役) |
| | 4月 清水日体大教授(松本出身) | 昭和44年 | 6月 ロバート・エルダー夫妻(ルポライター) |
| | 10月 村山有元ジャパンタイムス渉外部長 | 昭和48年 | 11月 レイモンド・ウノ夫妻(弁護士) |
| | 11月 野田信大医学部教授 | 昭和49年 | 11月 ポーロ・カトー(ソ市姉妹委員) |
| 昭和41年 | 1月 篠田(陶芸家) | 昭和50年 | 3月 ラマー・ファーンズ夫妻(ソ市動物園長) |
| | 古市(洋画家) | | 7月 リール・ファーンズ夫妻(ユタ州下院議員) |
| | 小岩井(日本画家) | | 8月 フレッド・ボール夫妻(ソ市商議所専務) |
| 昭和41年 | 10月 鈴木才能教育研究会長 | | 12月 ジャコブ・ガーン夫妻(米上院議員) |
| 昭和49年 | 7月 深沢市長、赤羽副議長、本郷商議所専務 | 昭和53年 | 5月 テニアン夫妻(ユタ大学美術学部長) |
| 昭和50年 | 11月 降旗長野放送社長 | | 10月 オルピン博士夫妻、アシュトン商議所 |
| 昭和51年 | 7月 和合市長、大槻市議会副議長、河野商議所会頭、浜商議所副会頭、本郷商議所専務 | 昭和54年 | 2月 アバント女史(デザレット新聞記者) |
| | | | 7月 テッド・ウィルソン市長 |
| 昭和53年 | 7月 降旗長野放送社長、上村助役、本郷商議所専務 | | 9月 フレッド・ボール(ソ市姉妹委員長) |
| | 9月 加藤信州大学学長 | 昭和56年 | 7月 マーチ・ミラー女史(ソ市姉妹提委員) |
| 昭和54年 | 4月 鈴木才能教育研究会会長夫妻 | | フレッド・ボールソ市商議所専務 |
| | 穂苅商議所副会頭 | | 9月 アボット夫妻(KSLテレビ副社長) |
| | 6月 本郷商議所専務 | 昭和57年 | 11月 スプリングマイヤー夫妻(ソ市姉妹委員長) |
| 昭和56年 | 10月 千葉信州大学医学部講師 | 昭和58年 | 9月 アリス・カサイ(ソ市姉妹委員) |
| | 11月 浜商議所会頭、本郷商議所専務、森商議所議員、小島商議所議員 | 昭和59年 | 3月 レノックス・ティアニー夫妻(ユタ大学美術学部長) |
| 昭和58年 | 7月 矢崎市議会議員、小林助役、本郷商議所専務 | | 3月 ビーターソン・マクワイヤー(ソ市役所部長) |
| 昭和61年 | 7月 和合市長、小原副議長、本郷商議所専務 | 昭和62年 | 11月 パルマー・デボリス夫妻(市長)、フレッド・ボール夫妻(ソ市商議所専務)、バーバラ・レビ(ソ市姉妹委員長) |
| 昭和62年 | 7月 市職員坪田明男、島村晃研修派遣(2カ月) | 昭和63年 | 10月 スプリングマイヤー一家 |
| 昭和63年 | 7月 和合市長、百瀬議員 | 平成元年 | 6月 リサ・カサイ女史 |
| 平成元年 | 5月 井上商議所会頭、本郷商議所専務、金井市長公室長 | 平成2年 | 9月 パルマー・デボリス市長 |
| 平成3年 | 5月 和合市長、小笠原議長、井上商議所会頭、栗林商議所副会頭 | 平成3年 | 11月 フレッド・ボールソ市商議所専務 |
| 平成4年 | 10月 松村助役 | 平成5年 | 9月 ゴドフリー市会議員、フレッド・ボールソ市商議所専務 |
| 平成5年 | 10月 松村助役、小林副議長、井上商議所会頭 | 平成7年 | 11月 フレッド・ボールソ市商議所専務 |
| 平成8年 | 5月 有賀市長夫妻、高山副議長、本郷商議所専務 | 平成9年 | 5月 トム・ウェルチSLOC会長 |
| 平成10年 | 7月 有賀市長夫妻、百瀬市議会議員夫妻、山口商議所副会頭 | 平成10年 | 2月 ディーディー・コラディーニ市長、ブライス・ジョリー市議会議員夫妻、スタンリー・パリッシュソ市商議所会頭 |
| 平成11年 | 4月 市職員公保靖彦研修派遣(1年) | | 3月 ディーディー・コラディーニ市長 |
| 平成13年 | 1月 有賀市長 | 平成11年 | 9月 市職員ランディー・テラー、ランディー・イズベル |
| 平成14年 | 2月 有賀市長夫妻、酒井市議会議員、池田商議所国際委員長、吉澤商議所理事 | 平成12年 | 10月 ロジャー・トンプソン市会議員夫妻 |
| 平成15年 | 7月 萩原助役、上條市議会議員、松下商議所専務夫妻 | 平成13年 | 10月 デイブ・ビューラー市議会副議長夫妻 |
| 平成20年 | 7月 菅谷市長、大久保市議会議員 | 平成15年 | 3月 住宅公社職員ビル・ナイスウォンガー夫妻 |
| | 井上商議所会頭 | 平成17年 | 8月 ティム・チャンプレス夫妻(ソ市企画部長)、令嬢 |
| 平成25年 | 7月 菅谷市長、太田市議会議員 | 平成18年 | 8月 ライザ・スプリングマイヤー |
| | 井上商議所会頭 | | ～20年7月 (国際交流アドバイザー) |
| 平成30年 | 7月 菅谷市長、上條市議会議員 | 平成19年 | 4月 市職員グエン・スプリングマイヤー夫妻 |
| | 井上商議所会頭 | | 9月 ハイムバーガー(州経済振興部アジア局長) |
| | | 平成20年 | 6月 スプリングマイヤー夫妻他6名 |
| | | | 9月 ラルフ・ベッカー市長、ヴァン・ターナー議員夫妻 |
| | | | JT・マーティン議員、ナタリー・ゴクノー |
| | | | ソ市商議所最高執行責任者、 |
| | | | フレッド・ハイムバーガー(ユタ州経済開発局 |
| | | | アジア部長)、エツコ・フリーマン ソ市姉妹都市 |
| | | | 松本代表、ジョー アン ソ市姉妹都市委員 |
| | | | ケビン・アオヤギ ソ市姉妹都市委員 その他9名 |
| | | 平成25年 | 8月 カイル・ラマルファ議長、他ソ市幹部職員等6名 |
| | | 平成27年 | 4・8月 トモコ・モーゼス氏等8名(交流関係者) |
| | | | 10月 ジェンダー・モラレス・コラゾ氏ほか1名 |
| | | 平成28年 | 2・4月 ジョシュア・ジョー氏、ロス・チェンバレス氏、郁恵・チェンバレス氏等 |
| | | | 6・7月 アリス・カサイ氏、ユニス・カトウ氏ご家族一行(ポーロ・カトウ氏ご令嬢) |
| | | 平成30年 | 10月 グエン・スプリングマイヤー氏(国際生活スクール担当者、ソ市OB)一行13名 |

※その他、AET(Assistant English Teacher)としてソ市から多くの若者の受入れ実施

カトマンズ市の概要・市との交流

ネパール連邦民主共和国の首都カトマンズ市との姉妹都市提携は、昭和51年、当時の駐日大使 B. P. シュレスタ氏が来松した際、北アルプスを背景とした松本平の風景がカトマンズ盆地に似ており岳都同士の縁を感じ、打診がされたことがきっかけです。

オイスカインターナショナル中野良子総裁の仲介により、ネパール王国皇室カドカ殿下が、昭和61年松本市で開催された国際アルピニスト大会へ参加された際にも、提携の要望がされるなど、10年以上の歳月を経て、平成元年11月17日に提携となりました。

1 都市概要

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| A 人 口 | 約170万人 | | | | | | | | | | | | | |
| B 面 積 | 50.67km ² | | | | | | | | | | | | | |
| C 平 均 標 高 | 1,331m(カトマンズ盆地) | | | | | | | | | | | | | |
| D 時 差 | -3時間15分 | | | | | | | | | | | | | |
| E 距 離 | 約5,000km | | | | | | | | | | | | | |
| F 気 候 | (気温=°C、降水量=mm) | | | | | | | | | | | | | |
| | 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 |
| 最 高 気 温 | | 17 | 19 | 24 | 27 | 28 | 28 | 27 | 27 | 26 | 25 | 22 | 18 | 24 |
| 最 低 気 温 | | 2 | 4 | 7 | 12 | 16 | 19 | 20 | 20 | 18 | 13 | 8 | 3 | 12 |
| 降 水 量 | | 47 | 11 | 15 | 5 | 146 | 135 | 327 | 206 | 199 | 42 | 0 | 1 | 95 |
| G 特 産 物 | 手透き紙、セーター、カーペット、紅茶、仏具、仏像、パシュミナ製品 | | | | | | | | | | | | | |
| H 市 長 | ビドゥヤ・スンダー・シャクヤ(Bidya Sunder Shakya)氏、2017.7～ | | | | | | | | | | | | | |

2 提携理由など

- (1) 日本の岳都と世界の岳都、「山と山」のつながりというわかり易く親しみやすい機縁があること。
- (2) アジア圏に新しい姉妹都市を得たいとする市民世論に合致すること
- (3) 互いにアジア圏の国として、歴史・文化・宗教などに共通する親しみが多く、登山・観光・学術・ボランティアなどを通じ、市民・県民レベルの交流が育っていたこと
- (4) 距離・交通・宿泊などの便宜に問題なく、豊かな自然環境にめぐまれ、さかんな市民交流が期待できること
- (5) 双方に姉妹都市提携に対する理解と熱意があり、機が熟していること

3 合意書



合意書内容:

日本国長野県松本市とネパール王国首都カトマンズ市とは教育・文化・人的な交流及び相互の経済協力を通じて、両国間の相互理解と友好を深め、市民福祉の増進を図り、さらに、両市の親善を促進し、もって、両国及び世界の平和と繁栄に貢献することを希求し、ここに姉妹都市として提携することに合意する。 平成元年11月17日

4 提携・交流団体

現在正式に提携を結んでいる団体はありませんが、平成11年に松本市からの訪問団が姉妹都市提携10周年記念訪問をした際に訪れたバンヌバクター学校の生徒から、松本市内の学生と交流したいという要望があり、平成12年1月松本市立信明中学校が受入れを希望し、交流が始まりました。平成12年7月には、バンヌバクター学校の教員3名と生徒13名が来松し、信明中学校との交流を深めました。また、平成18年にはカトマンズ盆地の各学校から教員2名を含む17名が来松し、ホームステイなど様々な交流を行いました。

5 松本市カトマンズ市姉妹提携委員会概要

カトマンズ市と姉妹都市提携をしてから半年後の平成2年5月に、カトマンズ・ネパールを愛する多くの市民の協力により、設立が実現されました。経済的な立場、生活習慣や宗教の違いを越え、人と人とのあたたかい交流を目指して、研修生の受入れやネパール文化の紹介に協力しています。平成24年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され「松本市海外都市交流委員会」が発足しました。以降カトマンズ部会として活動しています。

部会員数:個人会員 15 団体会員 17 (令和2年10月現在)

6 交流事業

(1) 公式訪問団

| カトマンズ市へ | | | 松 本 市 へ | | |
|---------|-----|--|---------|----|-------------------|
| 平成 2年 | 26名 | 1 周 年 記 念 訪 問 団 | 平成11年 | 6名 | 1 0 周 年 記 念 訪 問 団 |
| 平成 3年 | 29名 | 2 周 年 記 念 訪 問 団 | 平成16年 | 4名 | 1 5 周 年 記 念 訪 問 団 |
| 平成 4年 | 17名 | 3 周 年 記 念 訪 問 団 | 平成19年 | 5名 | 市制施行100周年記念式典 |
| 平成 6年 | 32名 | 5 周 年 記 念 訪 問 団 | 平成21年 | 7名 | 2 0 周 年 記 念 訪 問 団 |
| 平成 8年 | 25名 | 7 周 年 記 念 訪 問 団 | | | |
| 平成11年 | 43名 | 1 0 周 年 記 念 訪 問 団 | | | |
| 平成14年 | 39名 | 市 民 団 | | | |
| 平成18年 | 18名 | 外 交 関 係 樹 立 5 0 周 年 記 念 (1 5 周 年 延 期 の 為) | | | |
| 平成23年 | 24名 | 2 0 周 年 記 念 訪 問 団 | | | |
| 平成27年 | 3名 | カトマンズ市救援募金贈呈 | | | |
| 平成28年 | 27名 | 外 交 関 係 樹 立 6 0 周 年 記 念 | | | |
| 平成30年 | 3名 | カトマンズ小学校へ支援物資贈呈 | | | |
| 令和元年 | 2名 | ネパール政府観光PR事業へ参加 | | | |
| 令和元年 | 19名 | 3 0 周 年 記 念 訪 問 団 | | | |
| 計 307名 | | | 計 22名 | | |

(2) 市民訪問団

| カトマンズ市へ | | | 松 本 市 へ | | |
|---------|-----|-------------------|---------|-----|-----------------|
| 平成 2年 | 26名 | 市 民 訪 問 団 | 平成7年 | 20名 | 市 民 団 |
| 〃 | 11名 | 松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会 | 平成12年 | 17名 | 学 生 訪 問 団 |
| 平成 3年 | 8名 | オ イ ス カ | 平成13年 | 6名 | 市 民 団 |
| 〃 | 8名 | 松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会 | 〃 | 4名 | 世 界 岳 都 都 市 会 議 |
| 平成 6年 | 40名 | 提 携 委 員 会 | 平成18年 | 16名 | 学 生 訪 問 団 |
| 平成 7年 | 14名 | 〃 | 平成19年 | 14名 | 〃 |
| 平成15年 | 20名 | 松 本 柔 道 協 会 | 平成22年 | 20名 | 〃 |
| 平成17年 | 2名 | 提 携 委 員 会 | 平成26年 | 6名 | 市 民 団 |
| 平成23年 | 13名 | 松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会 | | | |
| 平成24年 | 13名 | 松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会 | | | |
| 平成26年 | 6名 | 松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会 | | | |
| 平成26年 | 9名 | 松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会 | | | |
| 平成27年 | 6名 | 松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会 | | | |
| 令和 2年 | 13名 | 松 本 ヒ マ ラ ヤ 友 好 会 | | | |
| 計 189名 | | | 計 103名 | | |

7 交流の歴史

(1) カトマンズ市へ

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|---|
| 平成 2年 11月 | 姉妹都市提携1周年記念訪問団26名(名誉団長船津市議会副議長、団長小平収入役)が訪問し、13日ホテルアンナプルナで1周年記念式典祝賀会を開催した。 |
| 平成 2年 12月 | 姉妹都市提携1周年記念市民訪問団26名が訪問した。 |
| 平成 2年 12月 | 年末年始を利用して、ヒマラヤ友好会メンバー11名が訪問し、ロールワリン山群でトレッキングを行った。 |
| 平成 3年 7月 | オイスカ主催植林ボランティアに県内から8名が参加し、カトマンズ市を表敬訪問した。 |
| 平成 3年 11月 | 姉妹都市提携2周年記念市民訪問団29名が訪問した。 |
| 平成 3年 12月 | 年末年始を利用して、ヒマラヤ友好会メンバー8名が訪問し、ジヨムソン・ムクチナートでトレッキングを行った。 |
| 平成 4年 11月 | 林市長公室長を団長に、姉妹都市提携3周年記念訪問団17名が訪問した。 |
| 平成 6年 11月 | 姉妹都市提携5周年記念市民訪問団32名(団長有賀松本市長)が訪問し、植林事業やレセプションで友好親善を深め、「クリーン・グリーン・ヘルシーカトマンズ」建設に向け、植林基金50万円を贈呈した。 |
| 平成 6年 12月 | 姉妹都市提携5周年記念事業として、松本市カトマンズ市姉妹提携委員を含む参加者40名がエベレストトレッキングを行った。 |
| 平成 7年 12月 | 12月29日～1月6日、姉妹提携委員を含む参加者14名がアンナプルナ・ダウラギリ方面へのトレッキングを行った。 |
| 平成 8年 10月 | 10月26日～11月1日、姉妹提携7周年を記念し、松村助役を団長に市民訪問団を組織し、一行25名が公式親善訪問した。 |
| 平成 11年 11月 | 18～24日、姉妹提携10周年を記念して、有賀市長を団長に過去最多の43名が公式訪問した。 |
| 平成 14年 1月 | 15～21日、カトマンズ市武道館竣工を記念して、有賀市長を団長に39名の市民訪問団が公式訪問した。 |
| 平成 15年 1月 | 4～8日、カトマンズ市武道館竣工1周年を記念して、第3回国際親善ネパール学生柔道大会が開催され、松本柔道協会の百瀬壱副会長を団長に学生5名を含む、20名が訪問した。 |
| 平成 17年 11月 | 19～23日、ネパール王国及びカトマンズ市の状況を視察するため、姉妹提携委員会は鈴木幹事(団長)、百瀬壱幹事(団員)の2名を派遣し、市役所や大使館、JICA事務所等を訪問した。 |
| 平成 18年 11月 | 17～22日、平成16年の姉妹提携15周年の訪問が中止になっていたため、日本ネパール外交関係樹立50周年を記念し、坪田助役を団長に18名が公式訪問した。 |
| 平成 21年 11月 | 姉妹提携20周年訪問は、新型インフルエンザの世界的大流行、ネパールの政情不安により中止した。 |
| 平成 23年 11月 | 13～17日、延期となっていた提携20周年の公式訪問を坪田副市長を団長に24名で実施した。 |
| 平成 27年 8月 | 18～20日、ネパール大地震(4月25日発生)で被災したカトマンズ市の復興を支援するため、松本市海外都市交流委員会と連携して募金活動に取り組み、松本市救援金(200万円)と合わせて、1,000万円をカトマンズ市政府に贈呈した。松本市政策部長、政策部職員、松本市海外都市交流委員会カトマンズ部会長が訪問した。 |
| 平成 28年 12月 | 18～22日、日本ネパール外交関係樹立60周年を記念し、菅谷市長を団長に27名が公式訪問した。震災復興状況の視察や記念植樹、松本市紹介写真展を行ったほか、武道館出身のリオ五輪出場柔道選手のカトリさんと面会をした。 |

| | 主 内 容 |
|-----------|---|
| 平成 30年 1月 | 20～24日、松本市海外都市交流委員会で取り組んだチャリティー活動の売上を学用品に代え、現地学校へ贈呈するため、松本市政策部長、政策部職員、松本市海外都市交流委員会カトマンズ部会長が訪問した。 |
| 令和 元年 9月 | 11～17日、ネパール政府観光客誘客キャンペーンPR事業へ参加ため、松本市政策部職員2名が訪問した。 |
| 令和 元年 11月 | 11～15日、カトマンズ市姉妹提携30周年を記念し、副市長を団長に19名が公式訪問した。カトマンズ市長表敬、松本市内中学校と交流のあるバンヌバクタ学校を訪問したほか、震災被害から復興し、再建された柔剣道場にて柔剣道大会を開催した。 |

(2) 松本市へ

| 年 月 | 主 内 容 |
|------------|---|
| 平成 2年 9月 | カトマンズ市都市計画、建設技術担当のデビンドラ・ドンゴル氏を招待し、日本の日常生活・行政の実態などを体験・研修により相互理解を深めた。 |
| 平成 4年 10月 | ネパール経済ミッション(団長ネパール工業省N. K. バスネット氏)が来松し、長野県松本文化会館で「ネパール投資セミナー」を開催した。(松本側参加者 約50社) |
| 平成 4年 11月 | P. L. シン市長、B. B. マリ市議会議員が訪問した。カトマンズ市職員デビンドラ・ドンゴル氏がJICA研修のため松本市を訪問した。 |
| 平成 6年 10月 | 「国際砂防フォーラムin松本」にP. L. シン市長とマナンダール議員を招聘。歓迎レセプションを開催し交流を深めた。 |
| 平成 6年 11月 | アジア太平洋地域姉妹都市会議に出席したP. L. シン市長とシュレスタ議員を招聘し、地方都市視察事業を実施した。 |
| 平成 7年 4月 | JICA研修員として来松した、ネパール王国森林土壌保全省のボウデル次官他2名の歓迎レセプションを開催し、交流を深めた。 |
| 平成 7年 12月 | 6～11日、カトマンズ市よりバルシャラム・バンダリ氏を団長とする市議会議員等20名が来松し、歓迎会や視察研修で友好親善を深めた。 |
| 平成 9年 10月 | 12～13日、当市で研修経験があるカトマンズ市職員デビンドラ・ドンゴル氏が研修で来日した際、当市での施設見学や歓迎会を実施し、交流を深めた。 |
| 平成 9年 11月 | 26～27日、横浜市での国際会議に来日したマイナリ助役とキャンデール秘書が来松し、施設見学や歓迎会で交流を深めた。 |
| 平成 10年 5月 | 高崎経済大学付属経済研究所主催の第29回市民開放講演会に講師として来日したケシャブ・スタピット市長ら8名が来松し交流を深めた。 |
| 平成 11年 9月 | 20～24日、姉妹提携10周年を記念して、スタピット市長以下6名が公式訪問した。 |
| 平成 12年 5月 | 屋久島で開催となった世界自然遺産会議に出席するため来日した、市長秘書のシシール・マナンダール氏が来松し、交流を深めた。 |
| 平成 12年 7月 | 16～22日、カトマンズ市の私立バンヌバクター校のタクリ校長を団長に、教師2名、生徒13名及び通訳2名の計17名が来松し、信明中学校との交流や市内施設見学、舞踊公演等で交流を深めた。 |
| 平成 12年 11月 | 5～11日、カトマンズ市建築課職員のビマール・リジャル氏が来松し、武道館設計のための研修を行った。 |
| 平成 13年 9月 | 18～21日、カトマンズ市議会議員6名が来松し、交流を深めた。 |
| 平成 13年 10月 | 6～10日、ケシャブ・スタピット市長夫妻他4名が世界岳都都市会議に出席のため来松した。 |

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 14年 12月 | 15～25日、ナレシュ・クマール・レグミ総務部副部長はじめ、カトマンズ盆地開発事業本部(KVMP)の職員4名の計5名が研修のため来松した。 |
| 平成 16年 3月 | 15～18日、カトマンズ市武道館管理運営委員会のラクミ・トゥラダール氏とケシャブ・ダンゴル氏が研修のため来松した。 |
| 平成 16年 10月 | 17～20日、クリスナ・プラサド・デヴェコタ市長代理他3名が、姉妹提携15周年記念公式親善訪問団として来松した。 |
| 平成 18年 6月 | 15～16日、国内での国際会議に来日したケシャブ・スタピット元市長他1名が、来松し交流を深めた。 |
| 平成 18年 9月 | 4～15日、私立バンヌバクター校の教師ブッディ・カルキ氏を団長に、教師1名、市職員1名、中高生14名からなるカトマンズ市学校交流団が来松し、市内視察や信明中学校・県ヶ丘高校訪問、ホームステイ等で市民と交流を深めた。 |
| 平成 19年 2月 | 18～20日、カトマンズ市都市開発部長のディベンドラ・ドンゴル氏が京都での気候変動会議出席後来松し、廃棄物処理や都市計画等について研修を行った。 |
| 平成 19年 6月 | 22～25日、第50回全日本花いっぱい松本大会(第6回世界大会)にあわせ、ガネッシュ・プラサド・バッターライ カトマンズ市副市長代理を団長とする、カトマンズ市公式親善訪問団一行5名が来松した。 |
| 平成 19年 11月 | 21～27日、私立バンヌバクター校教師ブッディ・カルキ氏を団長に、選手10名、コーチ1名、引率2名計14名からなるカトマンズ市学生柔道選手団が来松し、第12回醍醐敏郎杯全国少年柔道練成大会へ出場、また信明中学校訪問等で交流を深めた。 |
| 平成 22年 2月 | 7～9日、ガネッシュ・ライ市長代理他計7名が、姉妹都市提携20周年記念公式親善訪問団として来松した。その後ライ市長代理は、北九州市で行われた環境会議に出席した。 |
| 平成 22年 10月 | 27～30日、カトマンズ市をはじめとするネパール学生訪問団、中高生14名、教師・引率6名の計20名が来松し、環境問題学習としてクリーンセンター、宮渕浄化センター等を視察し、また信明中学校を訪問し交流を深めました。 |
| 平成 26年 2月 | 3～5日、カトマンズ市ナヤバザー地区の事務局長、以下職員5名が来松し、クリーンセンター等を視察しました。 |
| 令和 2年 9月 | 姉妹提携30周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により延期した。 |

(3) その他

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|-----------|--|
| 平成 4年 1月 | パタン市の歯科医カルナ・サキヤ氏が、あめ市でネパール曼荼羅展を開催した。 |
| 平成 4年 3月 | 姉妹提携委員会からカトマンズ市役所へファックス機を贈呈した。 |
| 平成 4年 7月 | ネパール王国駐日大使B. P. ディタール博士を迎え、「姉妹提携3周年記念のつどい」を開催した。 |
| 平成 5年 7月 | 国宝松本城400年まつり会場内の「姉妹都市館内」へカトマンズブースを設置し、カトマンズ市の紹介に努めた。 |
| 平成 5年 11月 | 本年7月の南アジア大洪水で被災したカトマンズ市へ、災害見舞金を贈呈した。 |

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 6年 10月 | 姉妹都市提携5周年記念事業として、井上アネックスパート2で開催した内田良平氏撮影のヒマラヤ・カトマンズ等の写真展を後援 |
| 平成 7年 6月 | 広島市で開催された「世界平和連帯都市市長会議・アジア太平洋地域会議」に主席したカトマンズ市代表团(ジョン副市長他3名)の歓迎レセプションに市長公室長が出席し、交流を深めた。 |
| 平成 7年 9月 | 12日中央公民館において、駐日ネパール大使の参加を得て、講演と映画で構成する「ネパールの夕べ」を行った。 |
| 平成 7年 10月 | 姉妹提携6周年を迎えて、多くの市民が撮影した写真をパネル化し、5日～10日「第一回市民参加ネパール写真展」を開催した。(応募者数41名、作品数282点) |
| 平成 9年 2月 | 姉妹提携7周年記念として、シタール奏者スシュマ・オマタさんらをお招きして、「シタールの夕べ」を開催。また、ケダル・バクタ・マテマ駐日ネパール大使夫妻も同日来松した。 |
| 平成 9年 9月 | 10～17日、ネパール民族音楽舞踊団を招聘し、松本市及び長野市において公演を行うことにより、文化交流を通じての相互理解を促進し、長野冬季五輪関連事業への協力を行った。 |
| 平成 11年 7月 | 19～25日、姉妹提携10周年事業の一環として節目の年を祝うとともに、市民のカトマンズ市への理解を深めていただくためにMウイングを主会場にカトマンズ・ウィークを開催した。 |
| 平成 11年 11月 | 19日、姉妹提携10周年記念訪問の際に行われた歓迎レセプションで、カトマンズ市への武道館建設に伴う合意書の調印がなされた。 |
| 平成 13年 2月 | 28日、姉妹提携10周年記念の一環として、松本市から贈呈されることとなったカトマンズ市武道館の起工式を行った。 |
| 平成 14年 1月 | 16日、市民からの募金等により完成したカトマンズ市武道館の竣工式を行い、橋本元首相が出席。松本市からも訪問団39名が出席した。 |
| 平成 14年 5月 | 17日、ネパールの国民的歌手ラム・クリシュナ・ダカール氏が来松し、信明中学校で音楽会を開催した。 |
| 平成 15年 1月 | 22日、カトマンズ市武道館建設事業が総務大臣表彰(世界に開かれたまち部門)を受賞した。 |
| 平成 15年 4月 | 1日から、カトマンズ市武道館のコーディネーターとして白井有紀氏をJICA職員としてカトマンズ市へ派遣した。 |
| 平成 15年 4月 | 19～20日、の2日間、Mウイング2階展示ギャラリーにおいて、写真展「王宮写真家が見たカトマンズ」を開催しキラン・マン・チトラカール氏他2名が来松した。 |
| 平成 16年 10月 | 13～27日、市役所3階渡り廊下において、NPO法人松本ヒマラヤ友好会の協力によりネパール王国とカトマンズ市を紹介する写真展を開催した。 |
| 平成 16年 11月 | 9～14日、Mウイング2階展示ギャラリーにおいて、NPO法人松本ヒマラヤ友好会の協力により、ネパール王国とカトマンズ市を紹介する写真展を開催した。 |
| 平成 17年 2月 | 2月24日～3月1日、井上デパート催事場において開催された、NPO法人松本ヒマラヤ友好会主催の設立15周年記念展の運営補助をした。 |

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|--------------------------|--|
| 平成 17年 3月 | 姉妹提携15周年を記念して、松本城に松本市とカトマンズ市の市章をあし らったピンバッジを作成し、会員他関係各所に配布した。 |
| | 昭和企業様からいただいた10万円のご寄付を元に、姉妹提携15周年の記 念の意味も込めて、カトマンズ市武道館に剣道竹刀と柔道着を送付した。 |
| | 愛知県内の関係者を通じて寄付された剣道用具を中心に、姉妹提携委員会 が送料を負担してカトマンズ市武道館へ送付した。 |
| 平成 20年 2月 | 松本ヒマラヤ友好会の招へいにより、会主催の写真展への参加及び、カトマ ンズ市長賞表彰のためカトマンズ市から訪問団が13名来松。姉妹提携委員 会共催による講演会等を実施した。 |
| 平成 20年 11月 | 27～28日、駐日ネパール特命全権大使のガネシュ・ヨンザン・タマン夫妻が 来松し、松本ヒマラヤ友好会主催、姉妹提携委員会共催により、交流会と歓 迎夕食会を開催した。 |
| 平成 21年 7月 | 4日、駐日ネパール大使館主催により、松本市において「松本市カトマンズ 市姉妹提携20周年記念祝賀会」が開催された。祝賀会にあわせてカトマン ズ市職員3名も来松し、6日まで市内を視察した。 |
| 平成 24年 4月 | 13日、駐日ネパール大使館のマダン・クマール・バッターライ特命全権任命大 使が来松し、菅谷市長を表敬した。 |
| 平成 26年 10月 | 19日、駐日ネパール大使館のマダン・クマール・バッターライ特命全権任命大 使が姉妹都市提携25周年を記念して来松、菅谷市長を表敬した。 |
| 平成 27年 5月 ～ 12月 | ネパール地震カトマンズ市救援募金(5月1日～12月31日)を松本市海外 都市交流委員会と連携して、実施。募金総額 8,436,641円を市救援金 の200万円と合わせてカトマンズ市政府へ贈呈した。 |
| 平成 28年 8月 | 10～11日、駐日ネパール大使館の臨時代理大使のクリシュナ・チャンドラ・ アリアル公使参事官を第1回「山の日」記念全国大会記念式典にお招きし た。 |
| 平成 28年 10月 | 19日、松本ヒマラヤ友好会写真展表彰式出席のため、駐日ネパール大使 館の臨時代理大使のクリシュナ・チャンドラ・アリアル公使参事官が来松し た。松本市と松本市海外都市交流委員会、松本ヒマラヤ友好会の共催で歓 迎会を開催した。 |

廊坊市の概要・市との交流

中華人民共和国河北省廊坊市との友好都市提携は、市民や松本日中友好協会からの要望などがきっかけとなりすすめられました。平成6年には、松本市中国友好都市調査団が派遣され候補となった3都市から廊坊市が選ばれ、平成7年3月21日に提携となりました。

提携後、相互の訪問や廊坊市から研修生の受入れ等を実施しています。

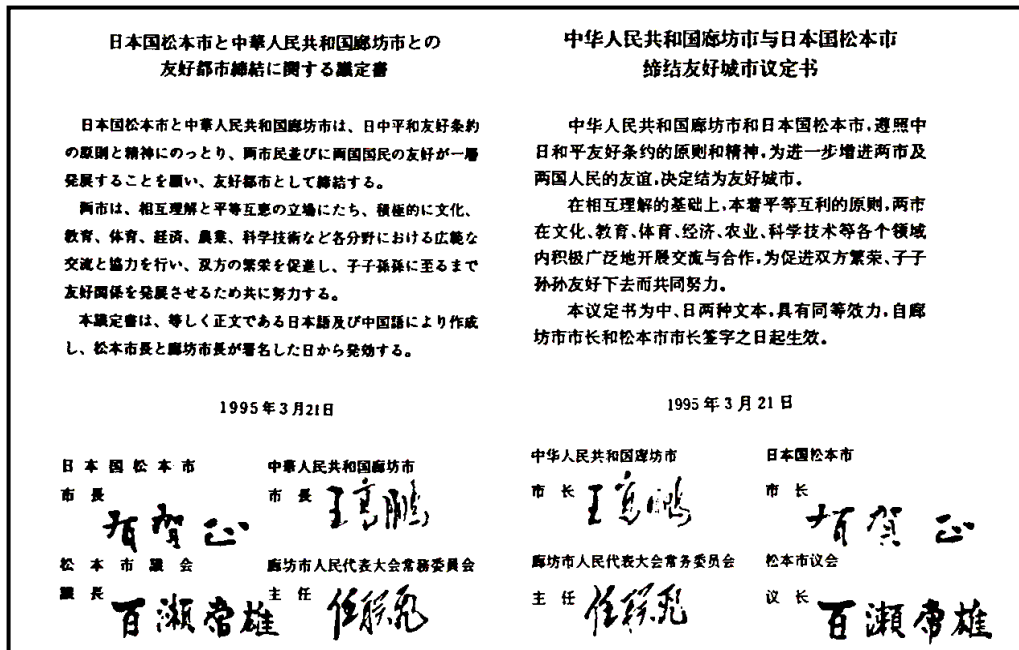
1 都市概要

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|---------------------------|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| A 人口 | 約492万人 | | | | | | | | | | | | | |
| B 面積 | 6,429km ² | | | | | | | | | | | | | |
| C 平均標高 | 13.8m | | | | | | | | | | | | | |
| D 時差 | -1時間 | | | | | | | | | | | | | |
| E 距離 | 約1,900km | | | | | | | | | | | | | |
| F 気候 | (気温=°C、降水量=mm) | | | | | | | | | | | | | |
| | 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 |
| 最高気温 | | 11 | 14 | 20 | 28 | 36 | 39 | 33 | 33 | 30 | 27 | 16 | 10 | 25 |
| 最低気温 | | -15 | -13 | -4 | 3 | 8 | 17 | 18 | 16 | 6 | -4 | -9 | -13 | 1 |
| 降水量 | | 0 | 6 | 17 | 1 | 5 | 204 | 163 | 184 | 77 | 3 | 5 | 12 | 56 |
| G 主な産業 | 軽工業、機械、電子、食品、建築材料、家具、農業 | | | | | | | | | | | | | |
| H 特産物 | 小豆、梨、メロン、なつめ、ピータン、いちご、首飾り | | | | | | | | | | | | | |
| I 市長 | 楊 燕偉(ヨウ エンイ)氏、2020.9～ | | | | | | | | | | | | | |

2 提携理由など

- (1) 今までの海外都市交流の経験から、中国の中心都市である北京市にできるだけ近い都市を選定することで、経済的にも日程上からも有効に中国滞在ができること
- (2) 廊坊市は、内陸に立地した軽工業、機械工業が盛んで、松本市の産業形態と類似点が多く民間の経済投資の可能性を秘めており、日本からの進出企業も多く、交流を進める上で心強い支えとなること
- (3) 松本市が「教育文化都市」を標榜しているのに対し、廊坊市は「科学研究・文化都市」を標榜していること
- (4) 廊坊市のある河北省は、長野県と友好関係を結んでいること

3 議定書



議定書内容:

日本国松本市と中華人民共和国廊坊市は、日中平和友好条約の原則と精神にのっとり、両市民並びに両国国民の友好がいつそう発展することを願い、友好都市として締結する。

両市は、相互理解と平等互恵にたち、積極的に文化、教育、体育、経済、農業、科学技術など各分野における広範な交流と協力をを行い、双方の繁栄を促進し、子々孫々に至るまで友好関係を発展させるために共に努力する。

本議定書は、等しく正文である日本語及び中国語により作成し、松本市長と廊坊市長が署名した日から発効する。 平成7年3月21日

日本国松本市
市長 有賀 正
松本市議会
議長 百瀬 常雄

中華人民共和国廊坊市
市長 王 高 鵬
廊坊市人民代表大会常務委員会
主任 任 聯 飛

4 提携・交流団体

| 年 月 | 松 本 市 | 廊 坊 市 |
|------------|-------------|-------------|
| 平成 8年 7月 | 並 柳 小 学 校 | 第 五 小 学 校 |
| 平成 8年 7月 | 開 成 中 学 校 | 第 六 中 学 校 |
| 平成 8年 11月 | 相 澤 病 院 | 市 人 民 病 院 |
| 平成 9年 3月 | 清 水 中 学 校 | 第 二 中 学 校 |
| 平成 9年 7月 | さ さ べ 幼 稚 園 | 第 二 幼 稚 園 |
| 平成 12年 10月 | 寿 小 学 校 | 第 十 二 小 学 校 |

5 松本市廊坊市友好提携委員会概要

廊坊市との交流事業等をより円滑に運営するため、平成10年10月に廊坊市からの第2次公式訪問団の来松にあわせ設立されました。

同年夏に起こった長江大洪水に対しては、廊坊市も支援活動を行っていたことから、設立間もない提携委員会からも義援金の送付を行い復興に貢献をしました。

両市の交流促進のため、写真展や音楽会など様々な事業を実施しています。

また、平成12年から隔年で提携委員会主催となる市民訪問団を組織し、廊坊市を訪問しています。

平成24年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され、「松本市海外都市交流委員会」が発足しました。以降、廊坊部会として活動しています。

部会員数：個人会員23 団体会員9（令和2年10月現在）

6 交流事業

(1) 公式訪問団

| 廊坊市へ | | | 松本市へ | | |
|--------|-----|------------|-------|-----|------------|
| 平成7年 | 28名 | 第1次公式親善訪問団 | 平成8年 | 13名 | 第1次公式親善訪問団 |
| 平成9年 | 34名 | 第2次公式親善訪問団 | 平成10年 | 6名 | 第2次公式親善訪問団 |
| 平成11年 | 36名 | 第3次公式親善訪問団 | 平成12年 | 11名 | 第3次公式親善訪問団 |
| 平成13年 | 37名 | 第4次公式親善訪問団 | 平成14年 | 10名 | 第4次公式親善訪問団 |
| 平成15年 | 30名 | 第5次公式親善訪問団 | 平成16年 | 10名 | 第5次公式親善訪問団 |
| 平成17年 | 37名 | 第6次公式親善訪問団 | 平成18年 | 7名 | 第6次公式親善訪問団 |
| 平成20年 | 13名 | 第7次公式親善訪問団 | 平成19年 | 10名 | 第7次公式親善訪問団 |
| 平成22年 | 17名 | 第8次公式親善訪問団 | 平成21年 | 6名 | 第8次公式親善訪問団 |
| 平成27年 | 14名 | 第9次公式親善訪問団 | 平成23年 | 6名 | 第9次公式親善訪問団 |
| 計 232名 | | | 計 79名 | | |

(2) 市民訪問団

| 廊坊市へ | | | 松本市へ | | |
|--------|-----|---------------|-------|----|---------------|
| 平成7年 | 20名 | 松本法人会 | 平成8年 | 5名 | 医学交流訪日団 |
| 平成8年 | 16名 | 地域開発研究会 | 平成10年 | 6名 | 市民団 |
| " | 4名 | 相澤病院 | " | 6名 | " |
| " | 14名 | 運を掴む | 平成11年 | 4名 | 経済交流訪日団 |
| " | 43名 | 松本日中友好協会 | " | 5名 | 学校訪問団 |
| 平成9年 | 21名 | 松本ゲートボール協会 | 平成13年 | 2名 | 世界岳都都市会議 |
| " | 8名 | 松本卓球連盟 | 平成20年 | 8名 | 医療交流団 |
| " | 46名 | 才能教育研究会 | 平成22年 | 6名 | 親善訪問団 |
| 平成10年 | 8名 | 市民訪問団 | 平成24年 | 6名 | 教育シンポジウム関係者 |
| 平成12年 | 5名 | " | 平成26年 | 6名 | 廊坊市人民醫院 |
| " | 10名 | 松本日中友好協会 | 平成30年 | 4名 | 宗口及灯印印中子生早球父会 |
| " | 35名 | 市民訪問団 | | | |
| " | 28名 | 第1回提携委員会 | | | |
| " | 4名 | 市民訪問団 | | | |
| 平成13年 | 18名 | 松本日中友好協会 | | | |
| " | 21名 | 市民訪問団 | | | |
| 平成14年 | 39名 | 第2回提携委員会 | | | |
| 平成16年 | 36名 | 第3回提携委員会 | | | |
| 平成18年 | 29名 | 第4回提携委員会 | | | |
| 平成21年 | 19名 | 第5回提携委員会 | | | |
| 平成24年 | 7名 | 日中卓球交歓大会 | | | |
| 平成29年 | 4名 | 日中卓球交歓大会 | | | |
| 平成30年 | 15名 | 松本日中友好協会 | | | |
| 令和元年 | 8名 | 廊坊市友好都市卓球交歓大会 | | | |
| 計 458名 | | | 計 58名 | | |

(3) 研修生

| 松本市へ | | | |
|-------|----|----|---------------|
| 平成10年 | 5月 | 4名 | (農業 2名、医療 2名) |
| 平成11年 | 5月 | 4名 | (農業 2名、行政 2名) |
| 平成12年 | 5月 | 4名 | (農業 2名、医療 2名) |
| 平成13年 | 5月 | 4名 | (農業 2名、接客 2名) |
| 平成14年 | 5月 | 4名 | (医療 2名、接客 2名) |
| 平成15年 | 7月 | 2名 | 行政 |
| 平成16年 | 5月 | 2名 | 農業 |
| 平成17年 | 6月 | 2名 | 接客 |
| 平成21年 | 5月 | 3名 | (行政 1名、接客 2名) |
| 計 29名 | | | |

7 交流の歴史

(1) 廊坊市へ

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|---|
| 平成 7年 7月 | 7～11日、有賀市長を団長とする第1次「友好都市廊坊市公式親善訪問」一行28名が廊坊市を公式親善訪問し、議会の表敬訪問、そして学校や工場など市内視察や市民との交流を行い、各所で熱烈歓迎を受けた。 |
| 平成 7年 9月 | 松本市を中心に活動している「中国語を学ぶ会」の有志4名が、9月16日廊坊市を表敬訪問し、民間レベルでの交流を深めた。 |
| 平成 7年 9月 | キッセイ薬品工業の神澤邦雄会長を団長に、百瀬常雄市議会議員を特別顧問にした(社)松本法人会一行20名が22日～28日、松本平の民間経済団体としては初めて廊坊市を訪問した。 |
| 平成 8年 5月 | 19～20日、第2次松本市民間訪問団(地域開発研究会)16名が訪問した。 |
| 平成 8年 6月 | 21～23日、第3次松本市民間訪問団(相澤病院)4名が訪問した。 |
| 平成 8年 9月 | 19～20日、第4次松本市民間訪問団(運を掴む)14名が訪問した。 |
| 平成 8年 11月 | 15～16日、第5次松本市民間訪問団(松本日中友好協会)43名が訪問した。 |
| 平成 9年 5月 | 25～26日、第6次松本市民間訪問団(松本ゲートボール協会)21名が訪問した。 |
| 平成 9年 7月 | 11～15日、松村助役を団長に、松本市第2次廊坊市公式親善訪問団一行34名が訪問。研修生の相互受入に関する協定等を締結した。 |
| 平成 9年 8月 | 23～25日、第7次松本市民間訪問団(松本卓球連盟)8名が訪問した。 |
| 平成 9年 10月 | 8～9日、第8次松本市民間訪問団(才能教育研究会)46名が訪問した。 |
| 平成 10年 10月 | 24～28日、萩原社会部長を団長とした河北省主催経済交流・合作商談会松本市派遣代表団一行8名が訪問した。(第9次松本市民間訪問団) |
| 平成 11年 10月 | 11～16日、有賀市長を団長に松本市第3次廊坊市公式親善訪問団36名が友好提携5周年を記念して訪問した。 |
| 平成 12年 3月 | 20～23日、友好提携5周年を記念して桜を贈呈するために、松村助役を団長に5名が訪問した。 |
| 平成 12年 10月 | 6～9日、第12次松本市民間訪問団(西経会30周年記念)35名が訪問した。 |
| 平成 12年 10月 | 24～28日、提携委員会として初めての訪問事業として、百瀬常雄会長を団長に、28名が訪問した。(第13次松本市民間訪問団) |
| 平成 12年 12月 | 20～24日、第14次松本市民間訪問団4名が訪問した。 |
| 平成 13年 3月 | 13～17日、第15次松本市民間訪問団(松本日中友好協会20周年記念)18名が訪問した。 |
| 平成 13年 7月 | 2～5日、第16次松本市民間訪問団(JA松本ハイランド役員研修)21名が訪問した。 |
| 平成 13年 10月 | 22～27日、萩原助役を団長に松本市第4次廊坊市公式親善訪問団37名が訪問した。 |

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|-------------|---|
| 平成 14年 10月 | 10月28日～11月1日、百瀬常雄会長を団長に、2回目の提携委員会主催の訪問事業として39名が訪問した。 |
| 平成 15年 10月 | 17～23日、有賀市長を団長に松本市第5次廊坊市公式親善訪問団30名が訪問した。 |
| 平成 16年 10月 | 11～16日、百瀬常雄会長を団長に、3回目の提携委員会主催の訪問事業として36名が訪問した。 |
| 平成 17年 10月 | 10～15日、菅谷市長を団長に松本市第6次公式親善訪問団37名が訪問した。11日には廊坊市人民公園に友好提携10周年を記念し、桜の苗木100本を植樹した。 |
| 平成 18年 10月 | 16～20日、百瀬常雄会長を団長に、4回目の提携委員会主催の訪問事業として29名が訪問した。 |
| 平成 19年 7～8月 | 7月30日～8月6日、日中国交正常化35周年を記念した日中友好都市小学生卓球交歓大会が行われ、松本市と廊坊市の合同チームが参戦し、決勝トーナメント3位に入賞した。 |
| 平成 20年 10月 | 9～15日、坪田副市長を団長に松本市第7次公式訪問団13名が訪問した。 |
| 平成 21年 10月 | 12～16日、百瀬常雄会長を団長に、5回目の提携委員会主催の訪問事業として19名が訪問した。 |
| 平成 22年 6月 | 6月28日～7月1日、坪田副市長を団長に松本市第8次公式訪問団17名が訪問した。 |
| 平成 24年 8月 | 19日～21日、日中国交正常化40周年を記念し北京市で開催された日中友好都市中学生卓球交歓大会へ選手団7名を派遣、廊坊市と合同でブロック優勝をした。 |
| 平成 27年 11月 | 23日～28日、菅谷市長を団長に提携20周年を記念し、松本市第9次公式訪問団14名が訪問した。 |
| 平成 29年 8月 | 4日～6日、日中国交正常化45周年を記念し北京市で開催された日中友好都市中学生卓球交歓大会へ選手団4名を派遣、廊坊市と合同のチームで試合に臨んだ。 |
| 平成 30年 9月 | 5日～8日、日中平和友好条約締結40周年記念事業として、松本市日中友好協会相澤孝夫会長を団長とする一行15名が廊坊市を訪問した。 |
| 令和 1年 7月 | 7月28日～31日、廊坊市主催で初開催される友好都市卓球交流大会へ選手団8名を派遣、廊坊市と合同チームで参加し、好成績を収めた。 |

(2) 松本市へ

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 8年 4月 | 20～24日、廊坊市医学交流訪日団(第1次民間交流訪日団)5名が来松した。 |
| 平成 8年 7月 | 2～9日、張成起中国共産党廊坊市委員会書記を団長に第1次廊坊市公式親善訪問団一行13名が来松した。 |
| 平成 10年 2月 | 12～14日、第2次民間交流訪日団6名(長野オリンピック視察団)が来松した。 |
| 平成 10年 10月 | 4～16日、陳百旺人民代表大会常務副主任を団長に第2次廊坊市公式親善訪問団一行6名が来松した。 |
| 平成 10年 11月 | 18～19日、第3次民間交流訪日団6名が来松した。 |
| 平成 11年 6月 | 2～3日、廊坊市経済交流訪日団4名が来松した。 |
| 平成 11年 8月 | 4～9日、廊坊市第二中学校の副校長及び生徒5名が来松。友好提携校の清水中学校を訪問し、友好を深めた。 |

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|---|
| 平成 12年 10月 | 9～12日、王学軍廊坊市中国共産党委員会書記を団長に第3次廊坊市公式親善訪問団一行11名が来松した。 |
| 平成 13年 10月 | 6～10日、薛伯昌廊坊市政协商會議主席他1名が、世界岳都都市會議と併せて開催された姉妹都市交流会のため来松した。 |
| 平成 14年 10月 | 16～20日、張国斌廊坊市政府高級經濟顧問を団長に第4次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。 |
| 平成 16年 9月 | 17～20日、楊新建廊坊市委員会副書記を団長に第5次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。 |
| 平成 18年 10月 | 8～9日、王愛民廊坊市人民政府市長を団長に第6次廊坊市公式親善訪問団一行7名が来松した。 |
| 平成 19年 6月 | 22～23日、第50回全日本花いっぱい松本大会(第6回世界大会)にあわせ、王増力中国共産党廊坊市委員会書記を団長に第7次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。 |
| 平成 20年 1月 | 17～18日、呉立法中国共産党廊坊市委員会常務委員兼廊坊市副市長を団長とする、廊坊市医療交流団一行8名が来松した。 |
| 平成 21年 5月 | 28～30日、范永録中国共産党廊坊市委員会常務委員を団長に第8次廊坊市公式親善訪問団一行6名が来松した。 |
| 平成 22年 8月 | 26、27日、廊坊市外事弁公室蘇副主任を団長とする親善訪問団一行6名が来松した。 |
| 平成 23年 9月 | 30～10月1日、廊坊市人民政府、饒 貴華(じょうきか)副市長を団長とする親善訪問団一行6名が来松した。 |
| 平成 24年 7月 | 21日、教育シンポジウムの開催のため、廊坊市の教育局、友好提携小中学校4校教員6名が松本日中友好協会の交流する葫蘆島市の教育関係者6名とともに来松した。 |
| 平成 25年 5月 | 11日、程永華(ていえいか)大使が来松、菅谷市長と懇談、県営松本空港、上高地等を視察した。 |
| 平成 26年 5月 | 9日、駐日中国大使夫人 汪婉(おうえん)参事官が来松、坪田副市長と懇談、講演等を行った。 |
| 平成 26年 9月 | 30日、駐日中国大使館の韓志強(かんしきょう)公使一行7名が来松、坪田副市長と懇談、市内視察を行った。 |
| 平成 27年 9月 | 26日、公益社団法人 日中友好協会と駐日中国大使館が共催する日中友好をテーマにした秋季セミナーで程永華(ていえいか)駐日中国大使一行40名が来松、松本市長、副市長が出席した。 |
| 平成 30年 8月 | 16日～20日、長野市で開催される卓球交流大会に廊坊市選手団4名が来松、「松本市・廊坊市チーム」として参加した。 |

(3) 研修生

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|-----------|---|
| 平成 10年 5月 | 平成9年に締結した協定に基づき、13日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協で、医療2名は相澤病院でそれぞれ6カ月間の研修をした。 |
| 平成 11年 5月 | 13日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協で6カ月間、行政2名は松本市役所で4カ月間の研修をした。 |
| 平成 12年 5月 | 24日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協と市農協で、医療2名は相澤病院でそれぞれ6カ月間の研修をした。 |
| 平成 13年 5月 | 23日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協と市農協、接客2名はホテルブエナビスタでそれぞれ6カ月間の研修をした。 |
| 平成 14年 5月 | 22日に研修生4名が来松し、医療2名は相澤病院で、接客2名はホテルブエナビスタでそれぞれ6カ月間の研修をした。 |
| 平成 15年 7月 | 22日に研修生2名が来松し、行政2名が松本市役所で4カ月間研修した。 (SARSのため来松が2カ月延期) |
| 平成 16年 5月 | 26日に研修生2名が来松し、農業2名が松本ハイランド農協と市農協で6カ月間の研修をした。 |
| 平成 17年 6月 | 24日に研修生2名が来松し、接客2名がホテルブエナビスタで6カ月間の研修をした。 |
| 平成 21年 5月 | 20日に研修生3名が来松し、行政1名が松本市役所で接客2名がホテルブエナビスタで6カ月間の研修をした。 |

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 10年 10月 | 6日、松本市廊坊市友好提携委員会設立。(15団体 199名)また、長江流域等大洪水の義援金2,548,689円を廊坊市を通して被災地に贈呈した。 |

グリンデルワルト村の概要・市との交流

スイス連邦ベルン州グリンデルワルト村との姉妹都市提携は、昭和47年4月20日、旧安曇村との姉妹提携がきっかけです。平成17年4月1日に松本市と旧安曇村とが合併したことを受け、合併の合意事項である「姉妹都市となっている場合は、相手都市の意向を確認し、新市の姉妹都市とする」との調整方針に基づき、平成17年5月16日、新たに松本市との姉妹都市交流事業を継続していくことになりました。

長年の友好関係を引継ぎ、今後は国際観光などの分野でさらなる交流の発展が望まれています。

1 都市概要

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|------|
| A 人 口 | 4,000人 | | | | | | | | | | | | | |
| B 面 積 | 171km ² | | | | | | | | | | | | | |
| C 平均標高 | 1,034m | | | | | | | | | | | | | |
| D 時 差 | － 7時間（冬 －8時間） | | | | | | | | | | | | | |
| E 距 離 | 約 9,700km | | | | | | | | | | | | | |
| F 気 候 | （気温＝℃、降水量＝mm） | | | | | | | | | | | | | |
| | 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 |
| 最 高 気 温 | | 4 | 8 | 12 | 23 | 21 | 18 | 29 | 29 | 25 | 22 | 16 | 8 | 17.5 |
| 最 低 気 温 | | -20 | -12 | -10 | -8 | -2 | 3 | 3 | 6 | 3 | 0 | -1 | -15 | -3.2 |
| 降水量 | | 119 | 135 | 108 | 131 | 161 | 221 | 203 | 147 | 77 | 89 | 68 | 124 | 123 |
| G 主 な 産 業 | 観光 | | | | | | | | | | | | | |
| H 特 産 物 | 酪農製品 | | | | | | | | | | | | | |
| I 村 長 | ベアート・ブツヒャー(Beat Bucher)氏、2020.1～ | | | | | | | | | | | | | |

2 提携理由など(旧安曇村の提携当時)

- (1) 国際的に有名なアルプスを控えたグリンデルワルト村と姉妹提携を結び、教育、文化、産業、観光及びスキー技術の交流をもとに相互理解を高めつつ、平和で自然を愛する住民の福祉を増進させ、あわせて国際親善に役立てることとする。
- (2) 冬季札幌オリンピックの際、スイスのノルディック種目の監督として来日したローランド・ルーデイン氏(グリンデルワルト村のリフト会社社長)の意向をうけた、当時の日本交通公社副社長 兼松 学氏の紹介による。
- (3) 地域内に国際的に有名なアルプスを抱えており、共に山岳観光とスキーの自治体であること、また人口、予算規模とも同程度であり、自然に恵まれた景観を大切にしていること。

3 合意書



合意書内容:

日本国長野県松本市とスイス連邦ベルン州ベルナーオーバーラント グリンデルワルト村とは、引き続き姉妹都市としての交流に合意することを光栄とし、友好と文化を基盤に、環境・教育・観光など各分野の相互の協力を推進して、両国及び世界の平和と繁栄に貢献します。

平成17年5月16日

松本市長
菅谷 昭
松本市議会議長
渡辺 聡

グリンデルワルト村長
ドレス・スチューダー
グリンデルワルト村書記長
フリッツ・ローナー

4 松本市グリンデルワルト村姉妹提携委員会概要

グリンデルワルト村との姉妹都市交流をさらに深めていくため、行政・関係団体及び市民が一体となり、国際交流を推進することを目的に、平成17年10月24日に設立しました。

平成24年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され、「松本市海外都市交流委員会」が発足しました。以降、グリンデルワルト部会として活動しています。

部会員数：個人会員24 団体会員10（令和2年10月現在）

5 交流事業

(1) 公式訪問団

| グリンデルワルト村へ(合併前) | | | 安曇村へ(合併前) | | |
|-----------------|-----|-----------|-----------|-----|---------------|
| 昭和50年 | 27名 | 公式訪問団 | 昭和49年 | 5名 | 公式訪問団 |
| 昭和57年 | 11名 | 10周年記念訪問団 | 昭和52年 | 17名 | " |
| 平成4年 | 70名 | 20周年記念訪問団 | 昭和62年 | 26名 | 15周年記念訪問団 |
| 平成14年 | 57名 | 30周年記念訪問団 | 平成4年 | 35名 | 20周年記念訪問団 |
| | | | 平成9年 | 25名 | 25周年記念訪問団 |
| | | | 平成14年 | 29名 | 30周年記念訪問団 |
| 計 165名 | | | 計 137名 | | |
| グリンデルワルト村へ(合併後) | | | 松本市へ(合併後) | | |
| 平成18年 | 40名 | 公式訪問団 | 平成17年 | 25名 | 公式訪問団 |
| 平成23年 | 25名 | 公式訪問団 | 平成19年 | 14名 | 市制施行100周年記念式典 |
| 平成26年 | 41名 | 公式訪問団 | 平成22年 | 20名 | 公式訪問団 |
| 平成29年 | 23名 | 公式訪問 | 平成26年 | 31名 | 公式訪問団 |
| | | | 平成29年 | 26名 | 公式訪問 |
| 計 129名 | | | 計 116名 | | |
| 総計 294名 | | | 総計 253名 | | |

(2) 市民訪問団

| グリンデルワルト村へ(合併前) | | | 安曇村へ(合併前) | | |
|-----------------|-----|--------------|-----------|-----|-----------|
| 平成7年 | 20名 | 市民訪問団 | 平成5年 | 29名 | 市民 |
| 平成9年 | 31名 | " | 平成6年 | 12名 | " |
| 平成14年 | 14名 | 乗鞍スキークラブ | 平成12年 | 10名 | " |
| 平成15年 | 15名 | アルプホルン愛好会 | " | 23名 | " |
| 計 80名 | | | 計 74名 | | |
| グリンデルワルト村へ(合併後) | | | 松本市へ(合併後) | | |
| 平成21年 | 20名 | 提携委主催第1回親善訪問 | 平成24年 | 5名 | 役場・観光局関係者 |
| 平成25年 | 30名 | 松本ヒマラヤ友好会 | 平成25年 | 5名 | 役場・観光局関係者 |
| | | | 平成26年 | 4名 | 役場・観光局関係者 |
| | | | 平成27年 | 6名 | 役場・観光局関係者 |
| | | | 平成28年 | 2名 | 観光局関係者 |
| 計 50名 | | | 計 22名 | | |
| 総計 130名 | | | 総計 96名 | | |

(3) 学生交流

| グリンデルワルト村へ(合併前) | | | 松本市へ | | |
|-----------------|-----|---------------|-----------|-----|-------------|
| 昭和60年 | 17名 | 第1回中学生派遣事業 | | | |
| 昭和63年 | 19名 | 第2回中学生派遣事業 | | | |
| 平成3年 | 17名 | 第3回中学生派遣事業 | | | |
| 平成6年 | 18名 | 第4回中学生派遣事業 | | | |
| 平成9年 | 17名 | 第5回中学生派遣事業 | | | |
| 平成15年 | 17名 | 第7回中学生派遣事業 | | | |
| 計 105名 | | | 計 0名 | | |
| グリンデルワルト村へ(合併後) | | | 松本市へ(合併後) | | |
| 平成18年 | 14名 | 第8回中学生派遣事業 | 平成19年 | 10名 | 中学生ホームステイ事業 |
| 平成21年 | 22名 | 中学生ホームステイ訪問事業 | 平成28年 | 27名 | 中学生ホームステイ事業 |
| 平成24年 | 22名 | 中学生ホームステイ訪問事業 | 令和1年 | 30名 | 中学生ホームステイ事業 |
| 平成27年 | 27名 | 中学生ホームステイ訪問事業 | | | |
| 平成30年 | 22名 | 中学生ホームステイ訪問事業 | | | |
| 計 107名 | | | 計 67名 | | |
| 総計 212名 | | | 総計 67名 | | |

6 交流の歴史

(1) グリンデルワルト村へ(合併前)

| 年 | 主 な 内 容 |
|----------|---|
| 昭和50年 6月 | 13～22日、福島村長一行27名が、グリンデルワルト村を公式訪問した。 |
| 昭和57年 6月 | 14～22日、姉妹都市提携10周年を記念して、助役一行11名がグリンデルワルト村を公式訪問した。 |
| 昭和60年 5月 | 31日、村の中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を公式訪問した。これを第1回とし、以後3年毎に継続して訪問することとした。 |
| 昭和63年 4月 | 13日、乗鞍スキークラブ一行がグリンデルワルト村を親善訪問した。両校のスキー学校が姉妹提携をした。 |
| 昭和63年 5月 | 29日、第2回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行19名がグリンデルワルト村を訪問した。 |
| 平成 3年 5月 | 31日、第3回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。 |
| 平成 4年 6月 | 4日、姉妹提携20周年を記念して、村長ほか一行70名がグリンデルワルト村を親善訪問した。 |
| 平成 4年 7月 | 23日、スイス政府観光局が首都ベルンの連邦議事堂わきに世界の石を集めて作る『石の庭園』に、日本の代表として、安曇村の乗鞍岳と島ヶ谷の石を贈ることになり、いがやレクリエーションランドで受渡し式を挙行了した。 |
| 平成 4年 9月 | 20日、除幕式に村長が招待を受けてベルンを訪問した。 |
| 平成 5年 9月 | 27日、松本アルプスライオンズクラブがグリンデルワルト村を訪問し、現地でグリンデルワルトライオンズクラブと姉妹提携した。 |
| 平成 6年 9月 | 4～11日、第4回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行18名がグリンデルワルト村を訪問した。 |
| 平成 7年 7月 | 7月29日～8月6日、歌手ラトルスネーク・アニーの呼びかけでグリンデルワルト村において『マザーマウンテンコンサート』が再度開催された。安曇村からも子供達による和太鼓とコーラスグループ12名、大人8名が参加し、子供たちはホームステイの受入れをもらった。 |
| 平成 8年 8月 | 8月30日～9月5日、グリンデルワルト村建立850年記念式典に参加するため、村長を含む一般村民総勢31名がグリンデルワルト村を親善訪問した。 |
| 平成 9年 8月 | 8月31日～9月6日、第5回中学生研修派遣事業を実施した。 |
| 平成10年 7月 | 10日、『グリンデルワルト村と安曇村は姉妹村です』の歓迎看板をグリンデルワルト村へ送り、駅舎に掲げた。 |
| 平成11年 1月 | 5日、スキーコーチ交流事業で、筒木香恵をグリンデルワルト村へ派遣した。 |
| 平成12年 9月 | 2～8日、第6回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。 |

| 年 | 主 な 内 容 |
|-----------|--|
| 平成 13年 6月 | 6月30日～7月7日、姉妹提携30周年記念式典に参加するため、助役以下一般村民一行57名がグリンデルワルト村を親善訪問した。 |
| 平成 14年 4月 | 5～12日、「グリンデルワルトスキークラブ100周年式典」に乗鞍スキークラブ員14名が参加した。 |
| 平成 15年 6月 | 6月20日～10月1日、「世界最大のアルプホルンの集い」に安曇村アルプホルン愛好会一行15名が参加した。 |
| 平成 15年 9月 | 1～6日、第7回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。 |

(2) 安曇村へ(合併前)

| 年 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 昭和 49年 3月 | 20日、グリンデルワルト村から一行5名の公式訪問を受けた。 |
| 昭和 52年 5月 | 8日、グリンデルワルト村から、ハンスベルネット村長一行17名の公式訪問を受け、安曇小中学校体育館で記念式典を開催した。 |
| 昭和 62年 | グリンデルワルト村との姉妹提携15周年記念イベント『アルプス賛歌』を、乗鞍高原を中心に開催した。 |
| 昭和 62年 10月 | 3日、姉妹提携15周年を記念して、グリンデルワルト村から村長ら一行26名の公式訪問を受け、安曇小中学校で記念式典を挙行了した。 |
| 平成 4年 10月 | 10月25日～11月5日、姉妹提携20周年を記念して、グリンデルワルト村からA. ザイラー村長を含む一行35名の公式訪問を受けた。 |
| 平成 5年 8月 | 4～10日、信州博覧会の『世界の子供達と歌う マザーマウンテンコンサート』に出演するため、グリンデルワルト村の子供23名と大人6名が来村した。 |
| 平成 6年 10月 | 27～30日、安曇村開村120年にあたりボーレン副村長一行12名が来村した。上高地や涸沢へ登山した後、集落センターで開かれた記念式典に出席した。 |
| 平成 9年 4月 | 26～28日、姉妹提携25周年記念式典に出席するため、ボーレン副村長一行25名が来村した。上高地開山祭に参加した後、乗鞍観光センターで開催された式典で友好を深めた。 |
| 平成 10年 1月 | 1月31日～3月30日、スキーコーチ交流事業でレナーテ・リンチ、カリン・カウフマンの2名が来村した。 |
| 平成 11年 1月 | 1月8日～3月30日、スキーコーチ交流事業でマリアンネ・エッガー、スザンネ・チャンフの2女性が来村した。 |
| 平成 12年 5月 | 19～20日、Wアルプスの集いが東京で開催され、ボーレン村長以下10名が来村した。上高地アルペンホテルで歓迎会を開催した。 |
| 平成 12年 10月 | 28～31日、村民コンサート出演のため子供コーラス16名と大人7名が来村し、村内6家庭にホームステイした。 |
| 平成 14年 9月 | 9月29日～10月1日、姉妹提携30周年記念式典に出席するためボーレン村長一行29名が公式訪問し、乗鞍観光センターで式典を開催した。 |

(3) その他(合併前)

| 年 | 主 な 内 容 |
|-----------|---|
| 昭和 62年 8月 | 3～8日、グリンデルワルト村との姉妹提携15周年記念イベント『アルプス賛歌』を乗鞍高原を中心に開催した。また『安曇村アルプス夏期大学』や『湊沢音楽祭』などがNHKテレビで全国放映された。 |
| 平成 15年 6月 | 11日、Wアルプスの集いが東京で開催され、グリンデルワルト村の新旧観光局長、安曇村長ほかに参加した。 |
| 平成 16年 5月 | 13日、Wアルプスの集いが東京で開催され、グリンデルワルト村の観光局長、スイス政府観光局東京支局長、村長ほかに参加した。この集いに先立ち、在日スイス大使館が集いの参加者を昼食に招待した。 |

(4) グリンデルワルト村へ(合併後)

| 年 | 主 な 内 容 |
|-----------|--|
| 平成 18年 7月 | 3日～8日、菅谷市長を団長とする一行40名が姉妹都市交流の継続を確認してから初めてグリンデルワルト村を公式訪問した。 |
| 平成 18年 9月 | 4～9日、第8回中学生研修派遣事業を実施し、安曇地区の中学生12名を含む一行14名がグリンデルワルト村を訪問した。 |
| 平成 21年 6月 | 6月26日～7月1日、小林銀一会長を団長として、提携委員会主催第1回親善訪問団一行20名がグリンデルワルト村を訪問した。 |
| 平成 21年 8月 | 8月30日～9月4日、第1回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、松本市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。 |
| 平成 23年 8月 | 19日～24日、菅谷市長を団長に市民訪問団を組織し、一行25名がグリンデルワルト村を訪問した。シュラッピー村長から東日本大震災への義援金3万5千スイスフラン(約300万円)を託された。 |
| 平成 24年 9月 | 3日～8日、第2回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、松本市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。 |
| 平成 26年 7月 | 3日～10日、菅谷市長を団長に公式訪問団41名がグリンデルワルト村を訪問した。(日本スイス国交樹立150周年記念) |
| 平成 27年 9月 | 14日～19日、第3回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、白骨地区訪問団と合同で市内の中学生25名を含む一行27名がグリンデルワルト村を訪問した。 |
| 平成 29年 7月 | 6日～12日、菅谷市長を団長に公式訪問団23名がグリンデルワルト村を訪問した。(姉妹都市提携45周年記念) |
| 平成 30年 9月 | 10日～15日、第4回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。 |

(5) 松本市へ(合併後)

| 年 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 17年 5月 | 16～18日、旧安曇村が松本市に編入合併されたことを受け、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行25名が来松し、交流の継続を確認する合意書に調印した。 |
| 平成 19年 4月 | 4月30日～5月2日、松本市の市制施行100周年を記念し、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行14名が来松し、記念式典等に参加した。 |
| 平成 19年 5月 | 5～10日、グリンデルワルト村中学生ホームステイの受入れを行い、中学生6名を含む一行10名が安曇地区等でホームステイや地元の中学生との交流を行った。 |
| 平成 21年 11月 | 4日、日本語観光案内所の安東夫妻が来松し、市長を表敬した。 |
| 平成 22年 10月 | 1日～3日、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行20名が来松した。 |
| 平成 24年 5月 | 19日～21日、シュラッピー村長を団長に一行5名が来松した。 |
| 平成 25年 11月 | 11日～12日、シュラッピー村長を団長に一行5名が来松した。 |
| 平成 26年 9月 | 30日～10月4日、日本スイス国交樹立150周年を記念し、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行31名が来松し、記念式典等に参加した。 |

| 年 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 26年 11月 | 29日～12月2日、シュラッピー村長を団長に一行4名が来松した。 |
| 平成 27年 11月 | 27日～29日、シュラッピー村長を団長に一行6名が来松した。 |
| 平成 28年 5月 | 10日～14日、グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問団27名(中学生21、引率6)が来松、ホームステイのほか鉢盛、安曇、大野川中学校で交流を行った。 |
| 平成 29年 4月 | 25～28日、姉妹都市提携45周年を記念し、クリスチアン・アンデレック村長を団長に26名が来松した。乗鞍での交流や、上高地開山祭への出席等を行った。 |
| 令和 1 5月 | 8日～12日、グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問団30名(中学生25、引率5)が来松、ホームステイのほか安曇、大野川中学校を訪問、交流を行った。 |

(6) その他(合併後)

| 年 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 17年 5月 | 20日、第6回「Wアルプスの集い」が東京、及び妙高で開かれ、アルプスに縁の深い松本市、妙高市、スイスのグリンデルワルト村、ツェルマット村の2市2村が集い、PRを行なった。本市からは助役、観光戦略本部長が参加した。 |
| 平成 17年 10月 | 10月29日～12月23日まで開催された松本市美術館特別展「スイス・スピリッツ」展に、グリンデルワルト村姉妹都市紹介コーナーを設置して宣伝を行なった。オープン記念式典には駐日スイス大使なども参加した。 |
| 平成 18年 5月 | 17日、第7回「Wアルプスの集い」が東京で開かれ、前回に引続き2市2村が集い、PRを行なった。本市からは、観光戦略本部長が参加した。 |
| 平成 19年 1月 | 15～20日、第25回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市チーム(2名)が参加した。 |
| 平成 20年 1月 | 17～21日、第22回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム(4名)が参加した。 |
| 平成 21年 1月 | 18～24日、第27回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市代表チーム(2名)が参加した。 |
| 平成 22年 1月 | 21～25日、第24回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム(4名)が参加した。 |
| 平成 23年 1月 | 17～22日、第29回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市代表チーム(2名)が参加した。 |
| 平成 24年 11月 | 14日、前日王滝村へ視察に訪れたウルス・ブーヘル駐日スイス大使が姉妹提携の縁から来松し市長表敬訪問をした。 |
| 平成 25年 2月 | 7日、平成26年に日本とスイスが国交を樹立して150年目を迎えることから、記念事業の一環として駐日スイス大使をお招きして、あがたの森文化会館講堂で講演会を開催した。 |
| 平成 26年 10月 | 1日、日本スイス国交樹立150周年記念グリンデルワルト村公式訪問団の歓迎晩餐会へ、来賓としてピーター・ネルソン駐日スイス公使をお招きした。 |
| 平成 28年 1月 | 21～25日、第30回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム(2名)が参加した。 |
| 平成 28年 8月 | 9～12日、「山の日」記念式典へ、姉妹都市代表として観光局エッカー総監、ブルーノ局長をお招きした。 |
| 平成 29年 11月 | 24～26日、「第7回山岳フォーラム」に出展するため、日本語観光案内所の安東所長が来松した。 |

2 海外交流都市

高雄市の概要・市との交流

市民の健康の増進、福祉の向上、青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進するため、2015年7月14日(火)、台湾・高雄市の市政府関係者等を松本市へお迎えし、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」を締結しました。

1 都市概要

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------------------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| A 人 口 | 約277万人 | | | | | | | | | | | | | |
| B 面 積 | 2,947km ² | | | | | | | | | | | | | |
| C 平 均 標 高 | 200m | | | | | | | | | | | | | |
| D 時 差 | -1時間 | | | | | | | | | | | | | |
| E 距 離 | 約2,280km | | | | | | | | | | | | | |
| F 気 候 | (気温=°C、降水量=mm) | | | | | | | | | | | | | |
| | 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年間 |
| 最 高 気 温 | | 24 | 25 | 27 | 29 | 31 | 32 | 32 | 32 | 31 | 30 | 28 | 25 | 29 |
| 最 低 気 温 | | 16 | 17 | 19 | 22 | 25 | 26 | 26 | 26 | 26 | 24 | 21 | 17 | 22 |
| 降 水 量 | | 16 | 21 | 39 | 70 | 197 | 415 | 391 | 417 | 242 | 43 | 19 | 16 | 1885 |
| G 主 な 産 業 | 化学材料、金属製品 | | | | | | | | | | | | | |
| H 特 産 物 | バナナ、ライチ、パイナップルなどの果物、海産物など | | | | | | | | | | | | | |
| I 市 長 | 陳 其邁(チン キマイ)氏、2020.8～ | | | | | | | | | | | | | |

2 覚書締結の理由など

2014年に、菅谷松本市長が高雄市を2回訪問し、陳 菊(チン キク)高雄市長との会談の中で、両市が前向きに交流を進めることに合意しました。

以来、交流に向けた協議を重ねてきましたが、市民の健康の増進、福祉の向上、青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進するため、覚書を締結しました。

3 覚書

| 高雄市與松本市 健康、福祉、教育領域交流備忘錄 | 松本市・高雄市 健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書 |
|---|---|
| <p>中華民國高雄市與日本國長野縣松本市，為增進市民健康、提升社會福祉、培養身心健全的青少年而推動相互交流，就以下內容簽署備忘錄。</p> <p>1. 兩市將高齡化社會之因應對策視為重要課題，並就市民健康與社會福祉方面，進行廣泛且具體之交流及合作。</p> <p>2. 兩市積極推動教育交流。</p> <p>3. 本備忘錄上未規範之事項，可視需要由兩市共同協商決定。</p> <p>本備忘錄以中文及日文各繕2份，由兩市代表署名，兩種文字均本雙方各執1份。</p> <p>2015年7月14日</p> <p>高雄市 衛生局局長 <u>何啟功</u> 社會局局長 <u>姚雨靜</u> 教育局局長 <u>范翼綠</u></p> <p style="text-align: center;">見 證 人 高雄市委副书记 <u>吳宏謀</u></p> | <p>日本国長野県松本市と中華民國高雄市は、市民の健康の増進・福祉の向上・青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進していくため、以下の内容で覚書を締結する。</p> <p>1. 両市は、高齢社会への対応を重要課題とし、健康・福祉に関する施策の情報交換や研究を図り、具体的な協力を積極的に推進する。</p> <p>2. 両市は、教育交流を積極的に推進する。</p> <p>3. この覚書に定めのない事項については、必要に応じて両市が協議のうえ、決定するものとする。</p> <p>上記覚書の締結を証するため、日本語及び台湾語により、本書2通を作成し、両市の代表者が署名のうえ、各代表者がその1通を保有するものとする。</p> <p>2015年7月14日</p> <p>松本市 市長 <u>菅谷昭</u></p> <p style="text-align: center;">立 会 人 高雄市委副书记 <u>吳宏謀</u></p> |

覚書の内容:

日本国長野県松本市と中華民國高雄市は、市民の健康の増進・福祉の向上・青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進していくため、以下の内容で覚書を締結する。

- 1 両市は、高齢社会への対応を重要課題とし、健康・福祉に関する施策の情報交換や研究を図り、具体的な協力を積極的に推進する。
 - 2 両市は、教育交流を積極的に推進する。
 - 3 この覚書に定めのない事項については、必要に応じて両市が協議のうえ、決定するものとする。
- 上記覚書の締結を証するため、日本語及び台湾語により、本書2通を作成し、両市の代表者が署名のうえ、各代表者がその1通を保有するものとする。

2015年7月14日

松本市
市長 菅谷 昭

高雄市
衛生局 局長 何啓功
社会局 局長 姚雨靜
教育局 局長 范翼綠

立会人 高雄市 副市长 吳宏謀

4 交流の歴史
 (1) 高雄市へ

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 26年 3月 | 菅谷市長がトップセールスで高雄市と台南市を訪問、高雄市副市長と面会し、交流について意見を交わした。 |
| 平成 26年 5月 | 高雄市国際旅行博出展に伴い、坪田副市長が訪問、交流プログラムを提案した。 |
| 平成 26年 7月 | 松本市政策部長、美術館副館長、学校指導課が高雄市を訪問、中学生や美術館を切り口とした都市間交流を協議した。 |
| 平成 26年 10月 | 菅谷市長が陳菊高雄市長と会談し、中学生同士の教育交流を提案した。 |
| 平成 27年 11月 | 27日、松本市の健康福祉部長ほか5名が高雄市を訪れ、松本市が市内35地区36カ所の福祉ひろばで実施している「ふれあい健康教室」を高雄市の高齢者総合サービスセンターで開催した。 |
| 平成 29年 5月 | 11～15日、台湾への国際チャーター便の運航にあわせ、交流を更に進めるため市長を団長に公式訪問団を派遣した。高雄市では、健康福祉分野での交流や、中学校訪問、福祉・教育関係施設の視察等を行った。 |
| 令和 1年 7月 | 24～27日、菅谷市長を団長に医療関係者等健康福祉訪問団が高雄市を訪問し、健康・福祉分野における地域包括ケアシステムを核とした医療と介護の連携について情報交換を行い、高雄医学大学附属中和記念病院、高雄市長小港病院及び高雄市長大同病院等の視察をしました。 |
| 令和 2年 1月 | 6～10日、赤羽教育長を団長、学校関係者及び松本市立中学校5校の表生徒一行25名が高雄市を訪問しました。高雄市教育局表敬のほか、高雄市大仁国民中学校、高雄市福誠中学校を訪問し、高雄市長図書館等を見学しました。 |

(2) 松本市へ

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|---|
| 平成 27年 7月 | 14日、高雄市呉宏謀(ごこうぼう)副市長、教育局長ほか政府関係者等36名が松本市を訪れ、信州大学附属病院及び相澤病院を視察、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」を締結した。 |
| 平成 27年 12月 | 15～17日、高雄市長小港(シャオガン)病院の一行10名が信州大学医学部附属病院を視察研修するため訪問した。 |
| 平成 28年 3月 | 30日、長野県内の医療施設視察のため訪日した高雄市長小港病院の一行10名が来松し、相澤病院を視察した。 |
| 平成 28年 4月 | 2日、長野県内の医療施設視察のため訪日した陳菊市長ら28名が来松し、松本城本丸庭園で市長表敬を行った。 |
| 平成 28年 8月 | 17～19日、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」に基づき交流を進めている台湾高雄市新莊高級中学(高校)の生徒及び関係者60名が、セイジ・オザワ松本フェスティバルの開催期間にあわせ、音楽教育旅行として来松し、美術館中庭で演奏会を行ったほか、松商学園高校や松本大学との交流を行った。 |
| 平成 28年 11月 | 9～11日、高雄市社会局長ほか政府関係者2名が世界健康首都会議参加のため訪問、高雄市の福祉政策について講演を行った。 9～10日、高雄市長小港(シャオガン)病院の一行19名が信州大学医学部附属病院との覚書締結に向けた意見交換、視察研修、世界健康首都会議参加のため訪問した。 |
| 平成 29年 7月 | 4日、高雄市長小港病院が信州大学附属病院との覚書に基づき派遣した研修生ほか、小港病院関係者6名が来松し、菅谷市長を表敬した。 |

| 年 月 | 主 な 内 容 |
|------------|--|
| 平成 29年 9月 | 2～5日、台湾高雄市教育局黄(コウ)副局长はじめ、高雄市の小中高校生徒等で構成する訪問団65名が、セイジ・オザワ松本フェスティバルの開催期間にあわせて来松した。一行は、こども国際音楽会への参加や、旭町中学校での交流を行った。 |
| 平成 29年 11月 | 16～17日、高雄市立小港(シャオガン)病院の候(ホウ)院長、頼(ライ)副院長を含む13名が、世界健康首都会議参加のため訪問、高雄市の先住民族に対する福祉の取り組みや、熱帯に特有の疾病などについて、展示紹介を行った。 |
| 平成 30年 8月 | 教育局張榮譽督学を団長に、教育局及び陽明国民中学校生徒など72名が音楽教育旅行で松本を訪れ、セイジ・オザワ松本フェスティバルの吹奏楽パレードや国宝松本城本丸庭園内での合同演奏会への出演、フェスティバル演奏の鑑賞や、地元高校生との交流演奏会等を行いました。 |
| 平成 30年 11月 | 第8回世界健康首都会議で高雄市小港地区の医療、介護の総合型のしくみについて、高雄医学大学附属中和記念病院候院長、小港病院洪副院長から講演をいただくとともに、意見交換をさせていただきました |
| 令和 1年 5月 | 2019年中学生交流事業として台湾高雄市立龍華国民中学校一行35名が来松し、松本市立旭町中学校を訪問しました。旭町中の生徒は合唱、高雄市側中学生はフルート演奏や民族ダンスを行いました。学校給食の試食後、サッカー交流をしました。 |
| 令和 1年 10月 | 17～18日、第9回世界健康首都会議で高雄市医師会、高雄医学大学付属中和病院、大同病院等医療関係者一行18名が来松しました。3高疾病(高血圧、高脂肪、高血糖)管理のインテリジェンス化-MENモード、慢性疾患患者への栄養教育のインテリジェンス化の紹介ブースを出展し、松本市医師会及び松本市立病院、相澤病院及び丸の内病院を視察しました。 |

3 便利情報

和暦西暦対応表

| 和 暦 | 西 暦 |
|------------------|-------|
| 昭和 元年 (大正15年) | 1926年 |
| 昭和 2年 | 1927年 |
| 昭和 3年 | 1928年 |
| 昭和 4年 | 1929年 |
| 昭和 5年 | 1930年 |
| 昭和 6年 | 1931年 |
| 昭和 7年 | 1932年 |
| 昭和 8年 | 1933年 |
| 昭和 9年 | 1934年 |
| 昭和10年 | 1935年 |
| 昭和11年 | 1936年 |
| 昭和12年 | 1937年 |
| 昭和13年 | 1938年 |
| 昭和14年 | 1939年 |
| 昭和15年 | 1940年 |
| 昭和16年 | 1941年 |
| 昭和17年 | 1942年 |
| 昭和18年 | 1943年 |
| 昭和19年 | 1944年 |
| 昭和20年 | 1945年 |
| 昭和21年 | 1946年 |
| 昭和22年 | 1947年 |
| 昭和23年 | 1948年 |
| 昭和24年 | 1949年 |
| 昭和25年 | 1950年 |
| 昭和26年 | 1951年 |
| 昭和27年 | 1952年 |
| 昭和28年 | 1953年 |
| 昭和29年 | 1954年 |
| 昭和30年 | 1955年 |

| 和 暦 | 西 暦 |
|-----------------|-------|
| 昭和31年 | 1956年 |
| 昭和32年 | 1957年 |
| 昭和33年 | 1958年 |
| 提携:ソルトレーク | |
| 昭和34年 | 1959年 |
| 昭和35年 | 1960年 |
| 昭和36年 | 1961年 |
| 昭和37年 | 1962年 |
| 昭和38年 | 1963年 |
| 昭和39年 | 1964年 |
| 昭和40年 | 1965年 |
| 昭和41年 | 1966年 |
| 昭和42年 | 1967年 |
| 昭和43年 | 1968年 |
| 昭和44年 | 1969年 |
| 昭和45年 | 1970年 |
| 昭和46年 | 1971年 |
| 昭和47年 | 1972年 |
| 提携(安曇):グリンデルワルト | |
| 昭和48年 | 1973年 |
| 昭和49年 | 1974年 |
| 昭和50年 | 1975年 |
| 昭和51年 | 1976年 |
| 昭和52年 | 1977年 |
| 昭和53年 | 1978年 |
| 昭和54年 | 1979年 |
| 昭和55年 | 1980年 |
| 昭和56年 | 1981年 |
| 昭和57年 | 1982年 |
| 昭和58年 | 1983年 |
| 昭和59年 | 1984年 |
| 昭和60年 | 1985年 |
| 昭和61年 | 1986年 |
| 昭和62年 | 1987年 |
| 昭和63年 | 1988年 |

| 和 暦 | 西 暦 |
|------------------|-------|
| 平成 元年 (昭和64年) | 1989年 |
| 提携:カトマンズ | |
| 平成 2年 | 1990年 |
| 平成 3年 | 1991年 |
| 平成 4年 | 1992年 |
| 平成 5年 | 1993年 |
| 平成 6年 | 1994年 |
| 平成 7年 | 1995年 |
| 提携:廊坊市 | |
| 平成 8年 | 1996年 |
| 平成 9年 | 1997年 |
| 平成10年 | 1998年 |
| 平成11年 | 1999年 |
| 平成12年 | 2000年 |
| 平成13年 | 2001年 |
| 平成14年 | 2002年 |
| 平成15年 | 2003年 |
| 平成16年 | 2004年 |
| 平成17年 | 2005年 |
| グリンデルワルト(継続) | |
| 平成18年 | 2006年 |
| 平成19年 | 2007年 |
| 平成20年 | 2008年 |
| 平成21年 | 2009年 |
| 平成22年 | 2010年 |
| 平成23年 | 2011年 |
| 平成24年 | 2012年 |
| 平成25年 | 2013年 |
| 平成26年 | 2014年 |
| 平成27年 | 2015年 |
| 提携:高雄市 | |
| 平成28年 | 2016年 |
| 平成29年 | 2017年 |
| 平成30年 | 2018年 |

| 和 暦 | 西 暦 |
|------------------|-------|
| 令和 元年 (平成31年) | 2019年 |
| 令和 2年 | 2020年 |
| 令和 3年 | 2021年 |
| 令和 4年 | 2022年 |
| 令和 5年 | 2023年 |
| 令和 6年 | 2024年 |
| 令和 7年 | 2025年 |
| 令和 8年 | 2026年 |
| 令和 9年 | 2027年 |
| 令和 10年 | 2028年 |
| 令和 11年 | 2029年 |
| 令和 12年 | 2030年 |
| 令和 13年 | 2031年 |
| 令和 14年 | 2032年 |
| 令和 15年 | 2033年 |
| 令和 16年 | 2034年 |
| 令和 17年 | 2035年 |
| 令和 18年 | 2036年 |
| 令和 19年 | 2037年 |
| 令和 20年 | 2038年 |

| 和暦→西暦換算法 | |
|---------------------|--|
| 和暦(昭和)+1925 | |
| (例)昭和60+1925=西暦1985 | |
| 和暦(平成)+1988 | |
| (例)平成29+1988=西暦2017 | |
| 和暦(令和)+2018 | |
| (例)令和 2+2018=西暦2020 | |

**松本市国際関係資料
令和2年度版**

発行日 2020年(R2)10月1日
発行 松本市
編集 政策部総合戦略課国際交流担当
〒390-8620
長野県松本市丸の内3番7号
TEL 0263(34)3220 内線 1143
FAX 0263(34)3201
MAIL kokusai@city.matsumoto.lg.jp

